

12

特219
720

大坂郷土地理

大坂地理學會著



東京 大坂
博多成象堂

0
1
2
3
4
5
6
7
8
9
18
80
1
2
3
4
5

始



特219
720

大阪地理學會著

大阪鄉土地理

東京
大阪

成
象
堂

序

紀貫之は古今集の序に、「遠き處も出立つ足のもとより始まりて年月をわたりたり云々」と云ひ、孫子は「彼を知り己を知れば百戦危からず」と云うて居る。また希臘の古代に、デルファイといふ處に参詣人の多い御宮があつた。其處の額に「己を知れ」といふ語を彫んであつたと云ひ傳へて居る。他を知ること必要だが、我を知ることは一層大切である。然るに此頃の人々は、他を知るに急で、餘りに我を省みないといふ傾向がないではないか。

地理に於ける郷土誌は、即ち己を知るの一端である。郷土の智識が充分であつてこそ、始めて我國全體の地理も外國の地理も、用をなすのである。

此書の編纂者は、茲に感ずる所があり、大阪郷土地理の著作となつた。誠に時宜に適した舉というて宜しい。

郷土を知るの必要は常に學校生徒に限らない。大人も老人も、我が住む土地、我が目で見る都邑山川を能く心得て置けば、心が安んずる。又他から阪神地方に来る人も、初めに複雑極まる活動地の概念を得て置けば、調査なり用務なり見物なりに好都合である。

之を考へると、此書は阪神を郷土とする學校生徒にも、一般住民にも、又來遊者にも、缺くべからざる指針というて差支がないが、編纂者は寧ろ此書を以て地理學學習の基礎たらんことを期してゐるのである。

茲に著者の勞を謝し、いさゝか所感を述べて此書の序とする。

昭和八年三月

大阪地理學會會長 中 目 覺 識

例 言

- 一、本書は大阪府及び附近の中等學校に於ける郷土地理教授のために作られたものである。
- 一、郷土の範圍は行政區劃に拘泥せず、地理的單元としての廣義の大阪平野を採つた。即ち大阪府と兵庫縣の一部とに跨る大阪灣沿岸の平野を主とし、且つ周圍の丘陵地山地をも含んでゐる。
- 一、本書は概して都市に中心を置いた。その理由は、郷土に於ける人文的活動が大阪市及び其の他の都市を中心としてゐて、我等の生活が之等の都市と極めて密接な關係にあるからである。
- 一、本書には附圖・寫眞を出来るだけ多くした。それは教授者が之に依つて事實を敷衍し、且つ學習者をして直觀的に理解せしめん

がためである。

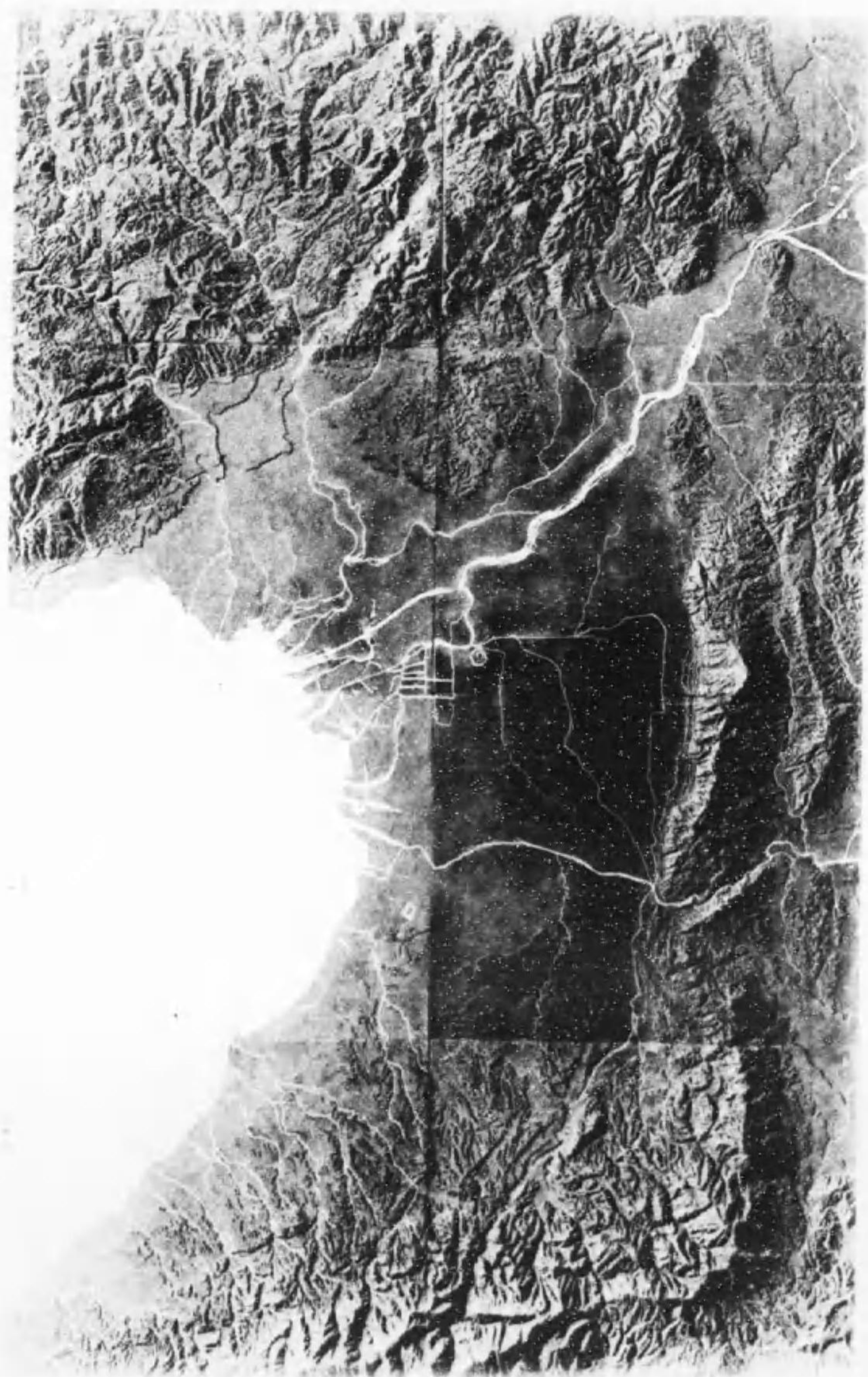
一、本書の文中、語句の側に附せる●印は主として地名を○印は主として地理的用語を示す。

一、統計の数字は、大阪府関係のものは大阪府統計書（昭和四年末現在）兵庫縣關係のものは兵庫縣治一斑（昭和五年現在）に依つたものが多い。

大阪郷土地理

目次

第一章	境域	一
第二章	位置	三
第三章	地形と人文	五
第一節	概説	五
第二節	淀川及び其の流域	八
第三節	大和川及び其の流域	四
第四節	和泉海岸平野	八
第五節	武庫平野	〇
第四章	氣候と人文	四



郷土の模倣

目次

二

第五章 大阪市……………三

第一節 概説……………三

第二節 大阪市の發達……………三

第三節 商業……………六

第四節 工業……………四

第五節 交通……………七

第六章 處誌……………五

第一節 堺市及び其の附近……………五

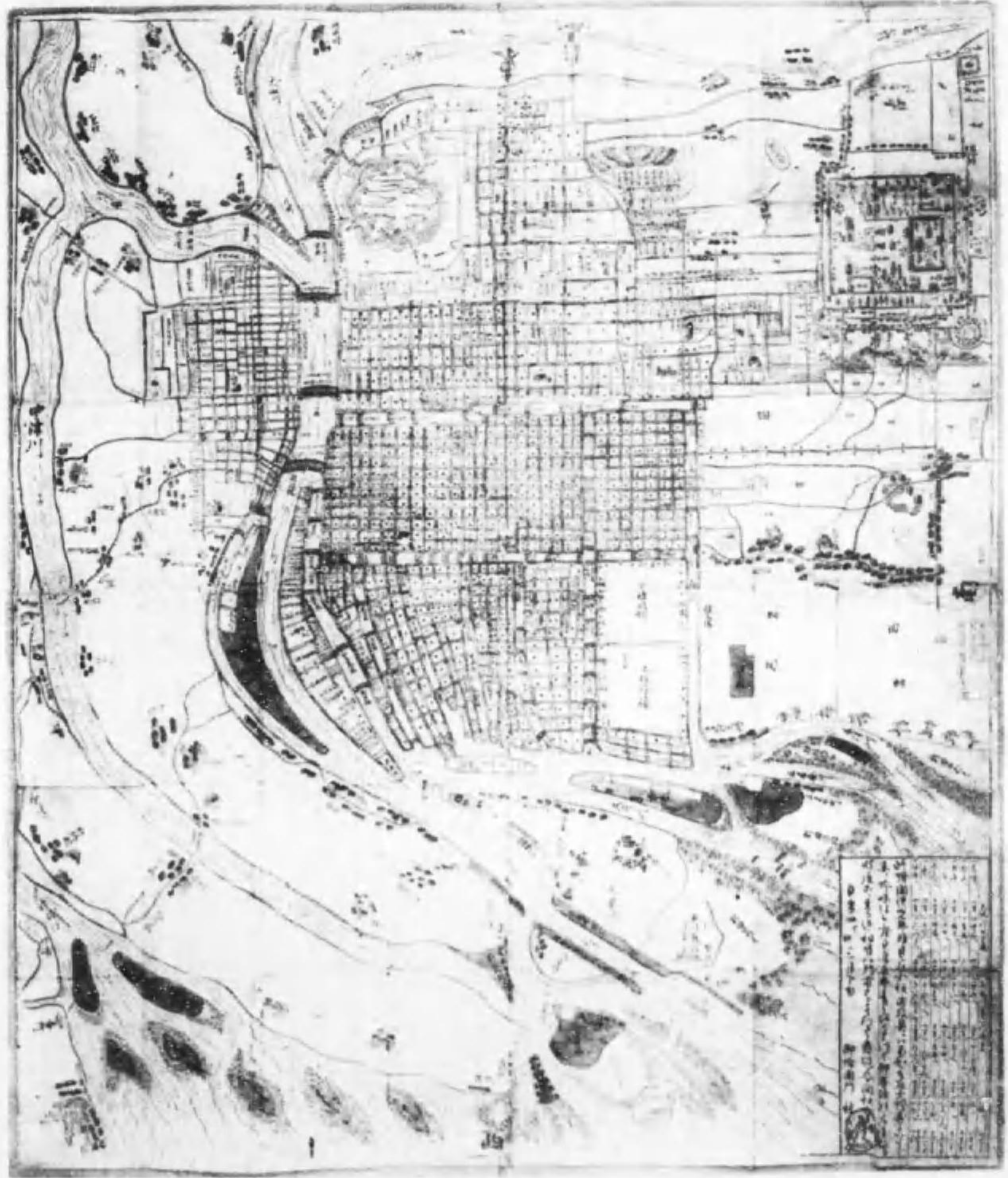
第二節 岸和田市及び其の附近……………六

第三節 尼ヶ崎市及び其の附近……………六

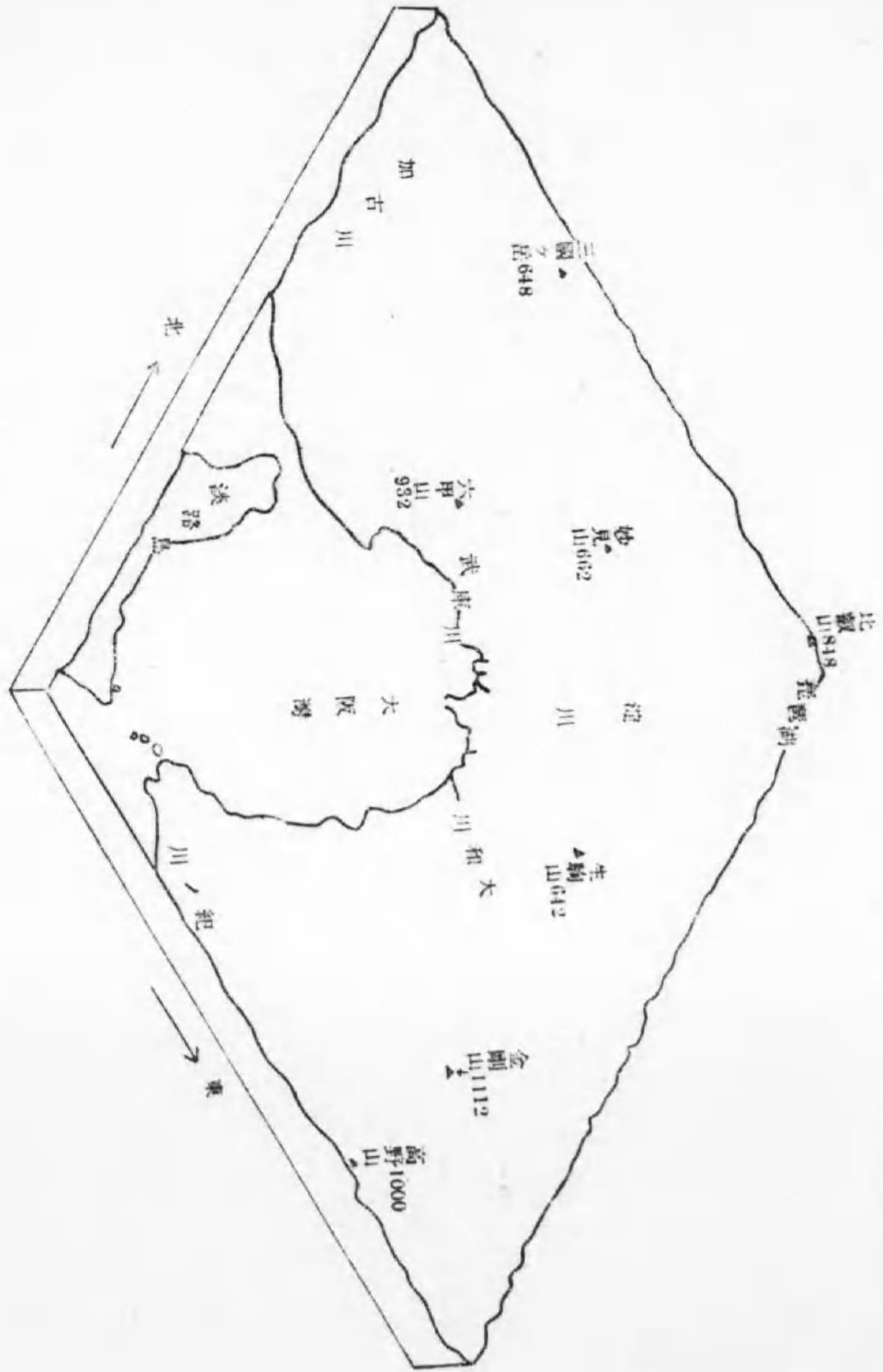
第四節 西ノ宮市及び其の附近……………六

第五節 神戸市及び其の附近……………六

目次終



大阪の古圖
 (年西草貞)
 る依に成集圖地版古本日



郷土のローツクアイアグラフィックム
 (す版附に度十六ひ向に方北東)

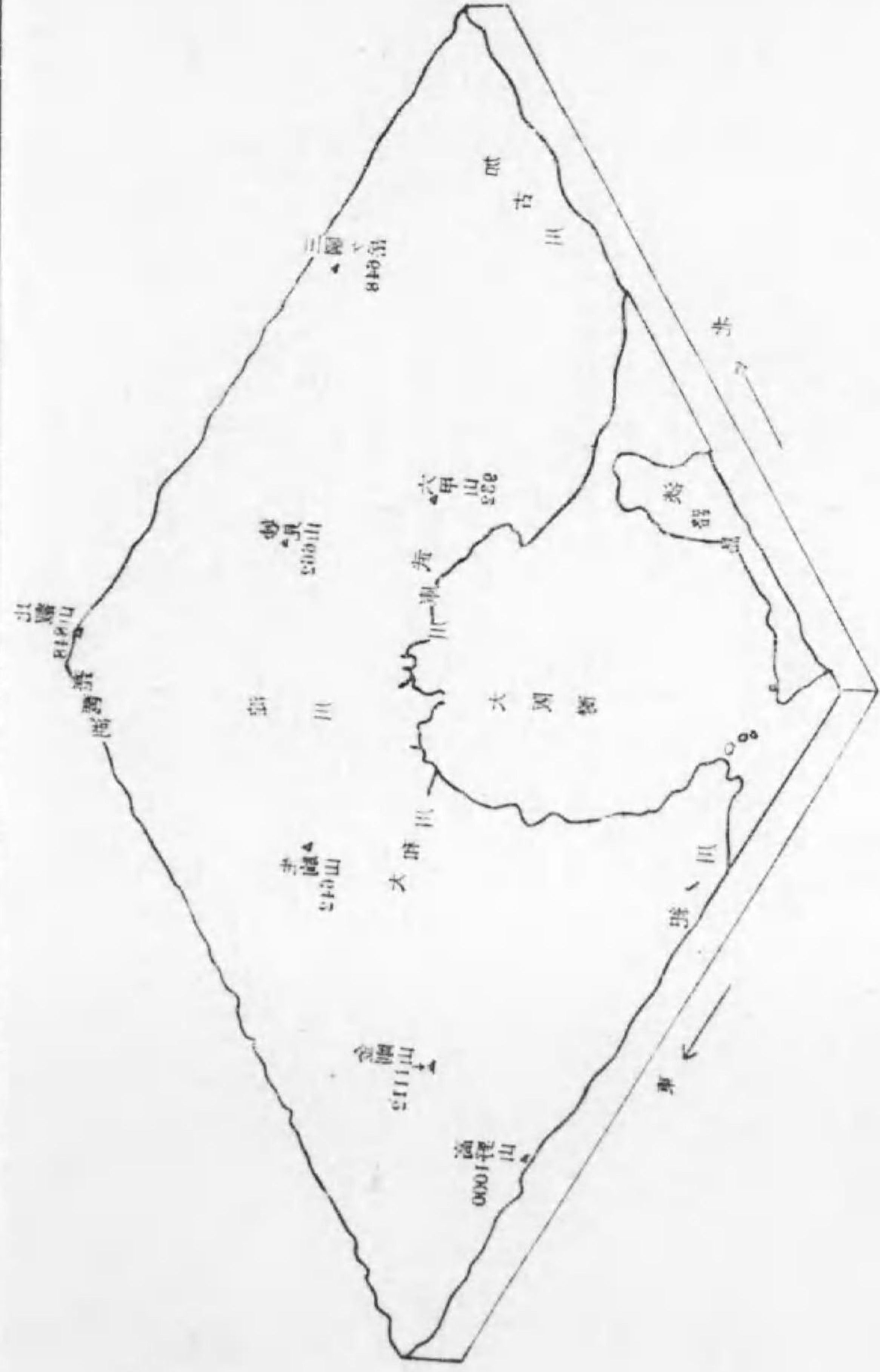
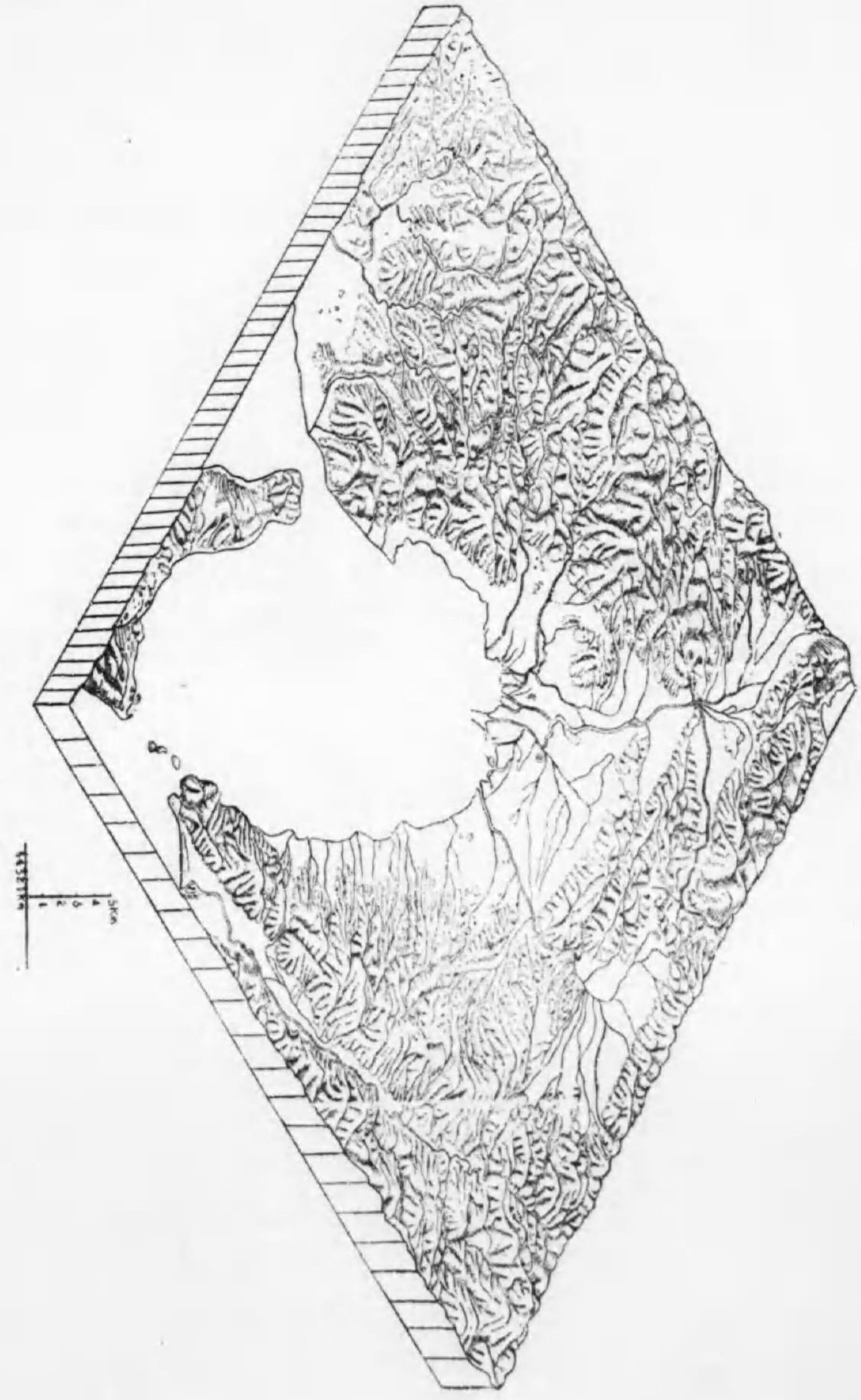


圖 11 (1) 大 國 標 之 地 理 概 況
 (東 亞 式 式 面 之 六 十 五 號 之 附 圖 下)

東は奈良縣、北は京都府、南は和歌山縣に接し、西は兵庫縣に跨つてゐる。

行政區劃
大阪府
大阪市、堺市、岸和田市、三島郡、豊能郡、泉北郡、泉南郡、南河内郡、中河内郡、北河内郡

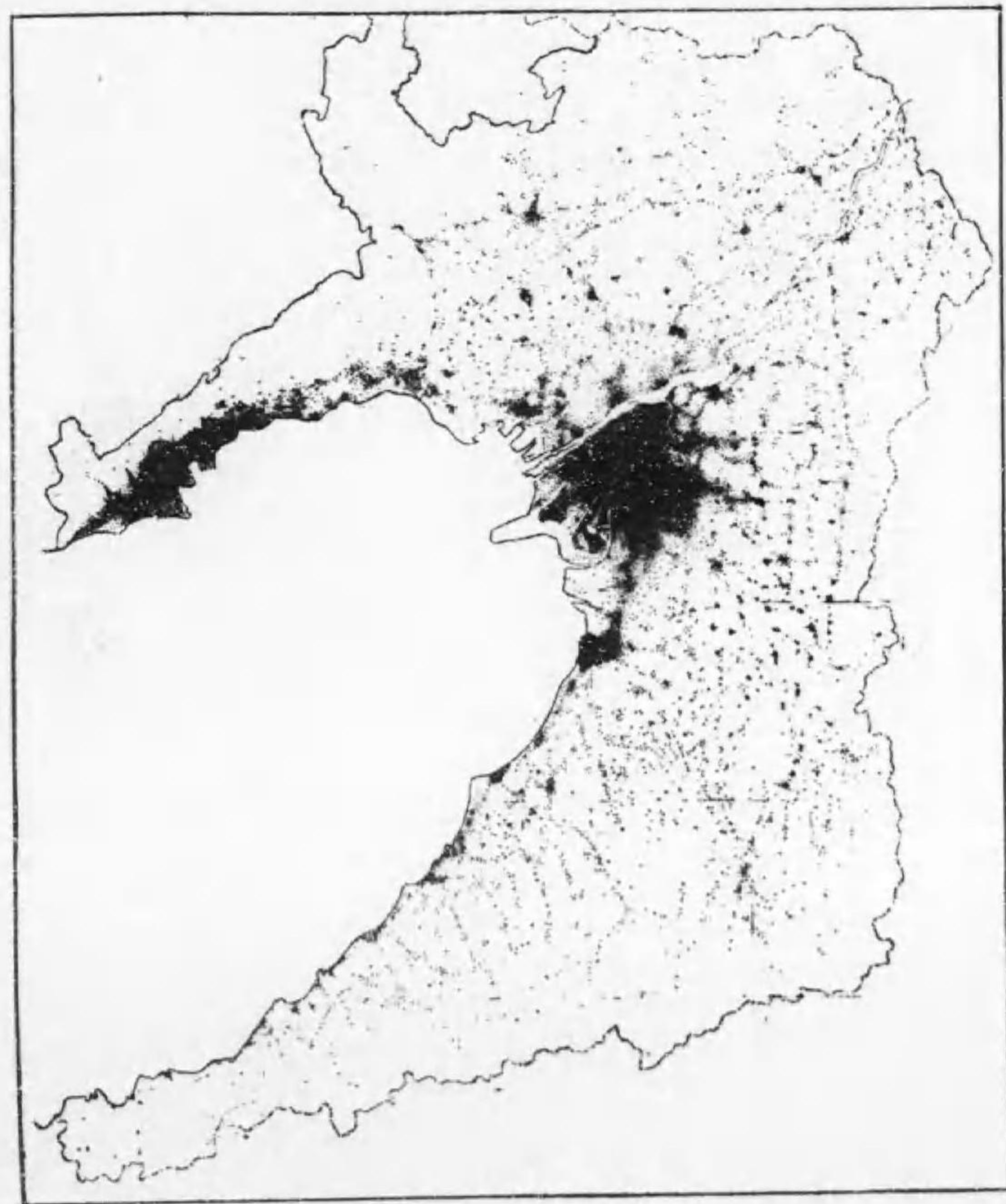
大阪郷土地理

大阪地理學會著

第一章 境 域

近畿地方には奈良盆地、京都盆地、近江盆地等多くの盆地群があつて、各特色ある地理的地方をなしてゐるが、我が大阪平野は大阪灣と共に一つの盆地性の地形からなり、一單元を形成してゐる。

此の大阪平野は盆地の東部から北部にかけて發達した地域で、面積約千五百万方呎、人口凡そ四百五十萬を抱擁し、東は金剛山脈に限られ、南は遠く和泉山脈に及び、北は老ノ坂山脈に接し、西は遙に六甲山塊の麓まで延びてゐる。



郷土の人口分布圖
(一は二百人を示す)



山 剛 金



隘 狭 の 崎 山

兵庫縣
 尼ヶ崎市、西ノ
 宮市、神戸市、
 川邊郡、武庫郡

國 名
 和 河 攝
 泉 内 津

大 阪 郷 土 地 理





和泉山脈の遠望



大阪平野(四條驛附近)

行政上平野の大部分は大阪府で、西部は兵庫縣の管轄に屬してゐる。

第二章 位置

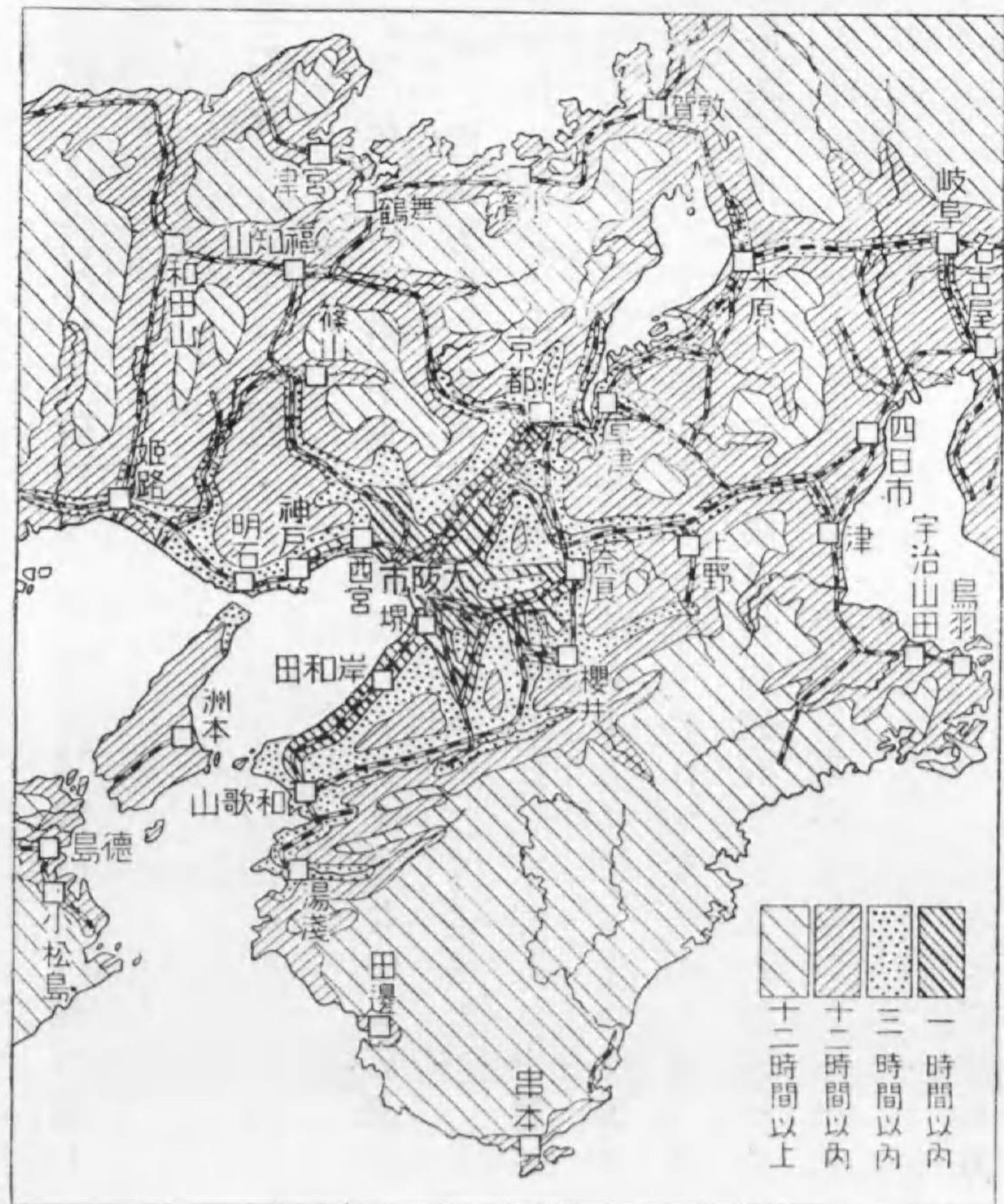
大阪平野は我が國の略中央、近畿地方の西部に位し大阪灣に臨んで、瀬戸内海方面との海陸連絡點にあたつてゐる。

陸路は淀川に沿うて山崎の隘路を東すれば、京都近江を経て北陸・東海方面に連り、大和川の峽谷を溯れば奈良より名古屋伊勢方面に出づべく、又武庫川の谷を北すれば山陰方面に達する。西は須磨・明石海峡によつて山陽及び四國九州地方に至るべく、南は紀淡海峡によつて太平洋沿岸の諸港と連絡することが出来る。

昔時は帝都であつた奈良・京都の門戸をなし、現在は鮮滿地方

北緯 三十四度十六分
四秒より三十五
度二分十九秒に
及ぶ
東經 百三十五度四十
五分より百三十
五度七分四十秒
に及ぶ

支那・南洋方面の開拓の出發點にあたり、實に海陸交通の重要地點を占めてゐる。



大阪を中心とする刻等圏圖

第三章 地形と人文

第一節 概説

大阪平野は瀬戸内陥没地帯の東部に當り、西方淡路島を境とせる一大盆地の東北部を占めてゐる。地體構造上淀川大和川武庫川等の河川によつて背後の山地から押出された土砂が、大阪灣を埋没してなれる平野であつて、多くは低平なる沖積地であるが、處々に洪積層からなる臺地や丘陵地が存在する。

山地 金剛山脈は千百十二米の金剛山を主峰として北へ延び、奈良縣や京都府の境となり、脈中に葛城山・信貴山・生駒山等があり、又二上山・火山群がある。此の山脈は地壘をなすもので、大和川以北を生駒山脈とも呼んでゐる。

和山脈は和歌山縣との境上を略東西に走り、中生層の和泉砂岩からなり、犬岩山、鳴山、



牛瀧山、槇ノ尾山等が著れてゐる。
 老ノ坂山脈は丹波高原の縁邊をなすもので京都府の老ノ坂附近から起り、大阪府北部一帯に連り、箕面山や能勢妙見山等が知られてゐる。

六甲山塊は鐵撈鉢伏から起つて摩耶六甲に連る花崗岩質の山塊で、南側に二三段の斷層崖をつくつてゐる。東端に甲山の小火山がある。

臺地丘陵地 淀川の北には千里山丘陵が箕面山地の斷層崖の麓に連り、南には生駒山脈の北縁に枚方臺地と交野ヶ原が發達してゐる。又大和川以南には和泉山脈から緩斜する埴生丘陵や臺地がひろくと連り、更に北へ延びては大阪市内の上町臺地をなしてゐる。これ等の臺地、丘陵地は所謂山麓臺地であつて、多くは開析され丘陵地となつて斷續してゐる。

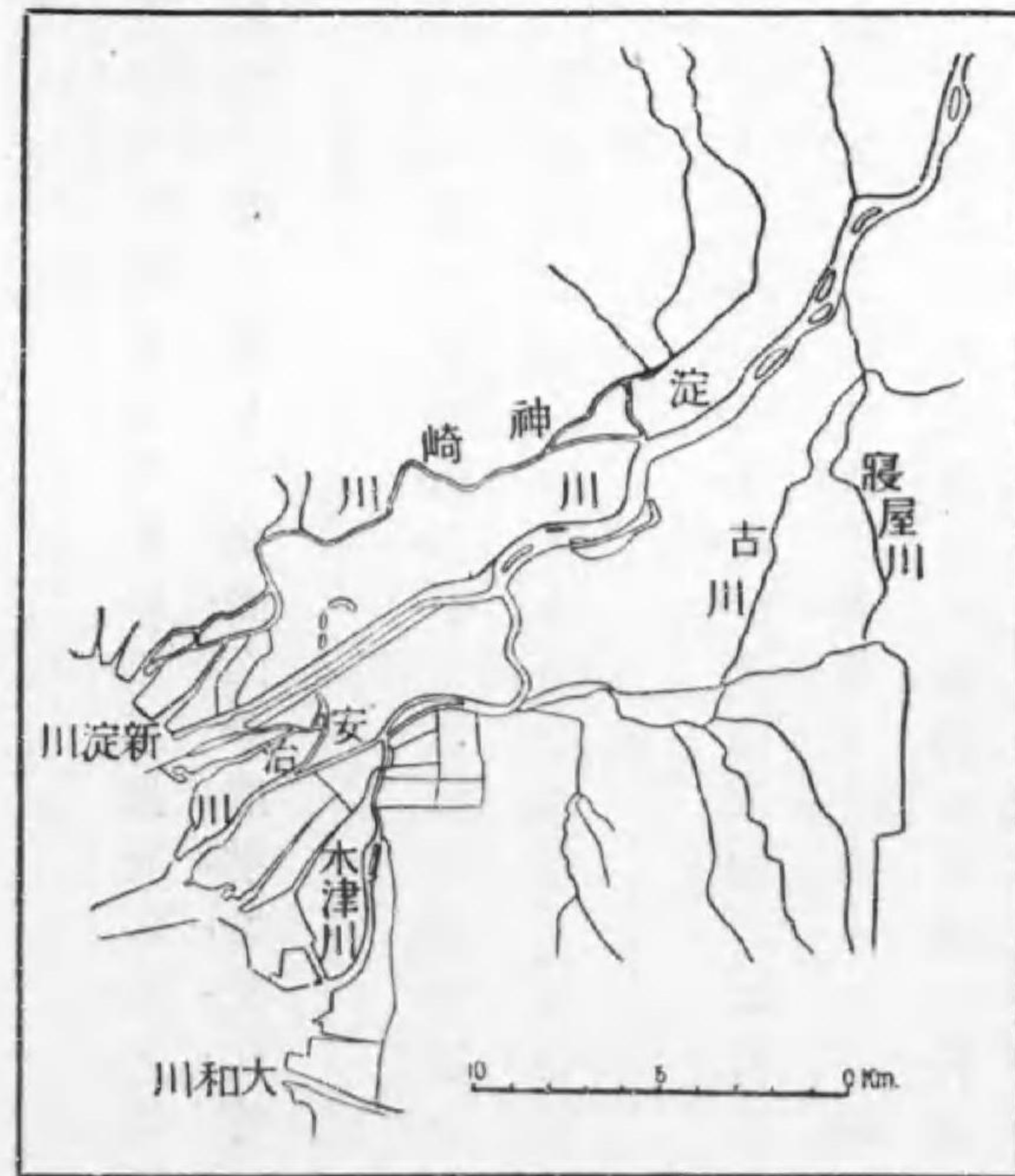
上町臺地は海拔十八米位で、大阪城を北端とする。

沖積地 沖積地は平野の中央部淀川大和川武庫川等の下流及び大阪灣の海岸地方に連なつてゐる。これ等の沖積地の多くは、三角洲平野からなり、殊に淀川の三角洲は其の發達が最も著しい。

和泉には狭長な海岸平野が發達し、六甲山塊の南麓には斷層崖の下に堆積した扇狀地平野がある。

第二節 淀川及び其の流域

淀川は琵琶湖を發



淀川の三角洲

淀川はもと枚方の四で古川を分流してゐたが、古川は今、人工によつて淀川と絶たれてゐる。

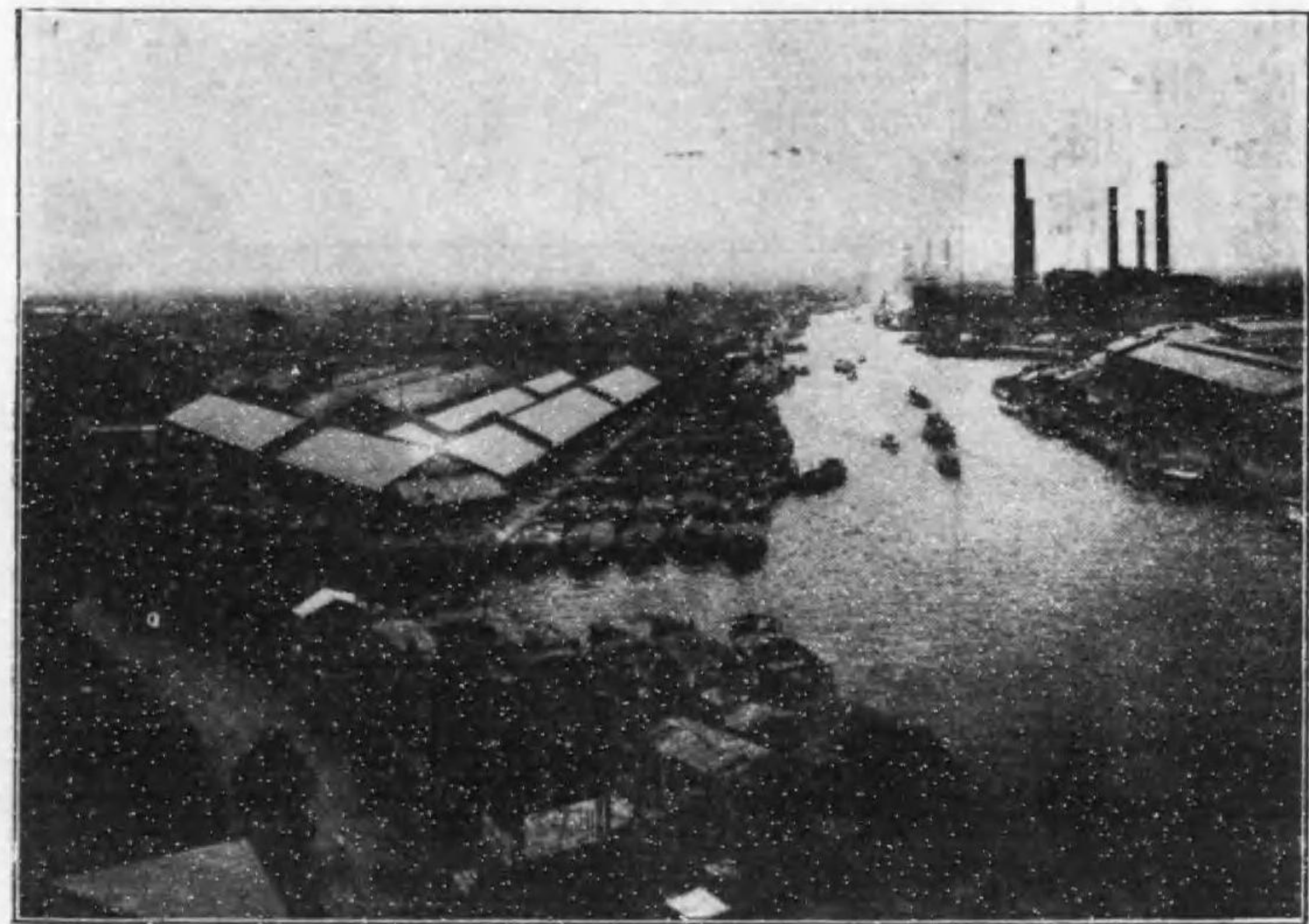
中津川は新淀川開鑿の爲めに河道の大部を失つたが、尙處々に其の一部を残してゐる。



馬毛の關門

して初め瀬田川と呼ばれ、京都盆地に下つて宇治川となり、淀からは淀川と稱せられて木津川桂川等を合せて山崎の狹隘を出で、平野の間を緩かに流れて大阪灣に注ぐ。全長約八十浬。下流は多くの分流をなして一大三角洲をつくつてゐる。

し、本流は毛馬から南へ流れて天満橋附近で寝屋川を入れ、堂島川と、土佐堀川とに分れて、中之島を挟み、更に安治川木津川尻無川等に分れてゐる。



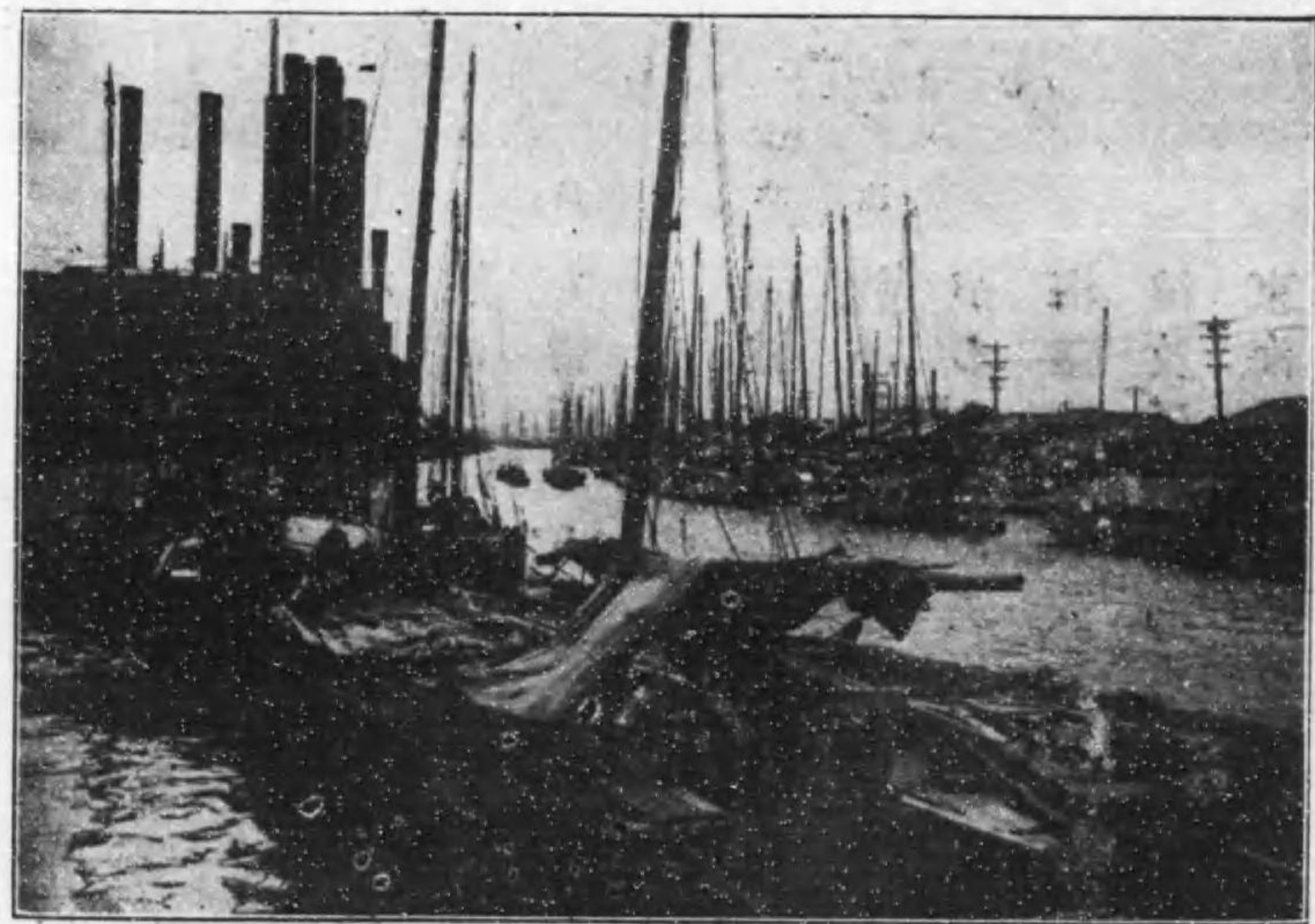
安治川(口川)

新淀川は淀川の放水路で、上流南郷の洗堰、下流毛馬の閘門は共に淀川の水害を除くためにつくられたものである。

「水の都」と稱せられてゐる大阪市は此の三角洲の上に發達した大聚落で、安治川や木津川には多くの船着場があり、殊に安治川は干潮時水深五米半で近海航路千噸級の汽船が絶えず發着してゐる。河口は大阪築港の

大阪には現在千三百以上の橋がある。

一部分をなして天保山・棧橋が設けられてゐる。木津川は和船の船着場が多く、其の船圍場は各地から集つてくる木材の置場としても利用せられてゐる。尙これ等の河川をつなぐためには無数の運河や堀江が縦横に開掘されて水運の便の大なることは我が國の都市中その比を見ない。又昔から「八百八橋」といはれてゐるのも大阪の一特色である。そして



堀江(三十三間堀川附近)

櫻井の驛母は此の沿線にある。山崎附近は古戦場をなし、又附近に水無瀬宮がある。吹田には朝日ビールの工場があり、吹田驛は東洋一の操車場である。高槻には高等醫學専門學校がある。



これ等の河川、運河の沿岸には大小の工場が集つてゐて、北大阪工業地帯をなし、林立する煙突から吐き出す煙は空を覆ひ煙の都の稱をも得てゐる。

古來淀川は京阪連絡の交通路をなし、河岸には守口、枚方橋、本淀、伏見等の船着場があり、又沿岸には鐵道東海道線、京阪、新京阪の電車線及び京阪國道等がある。東海道線に沿うては吹田、茨

木・高槻等の都邑が発達してゐる。

茨木・高槻は早くから開けた三島地方の名邑で、茨木にはゴルフ場があり、高槻には工兵大隊の兵營がある。附近の阿武山には京都帝國大學の地震觀測所が設けられてゐる。



宇治川の水力發電所

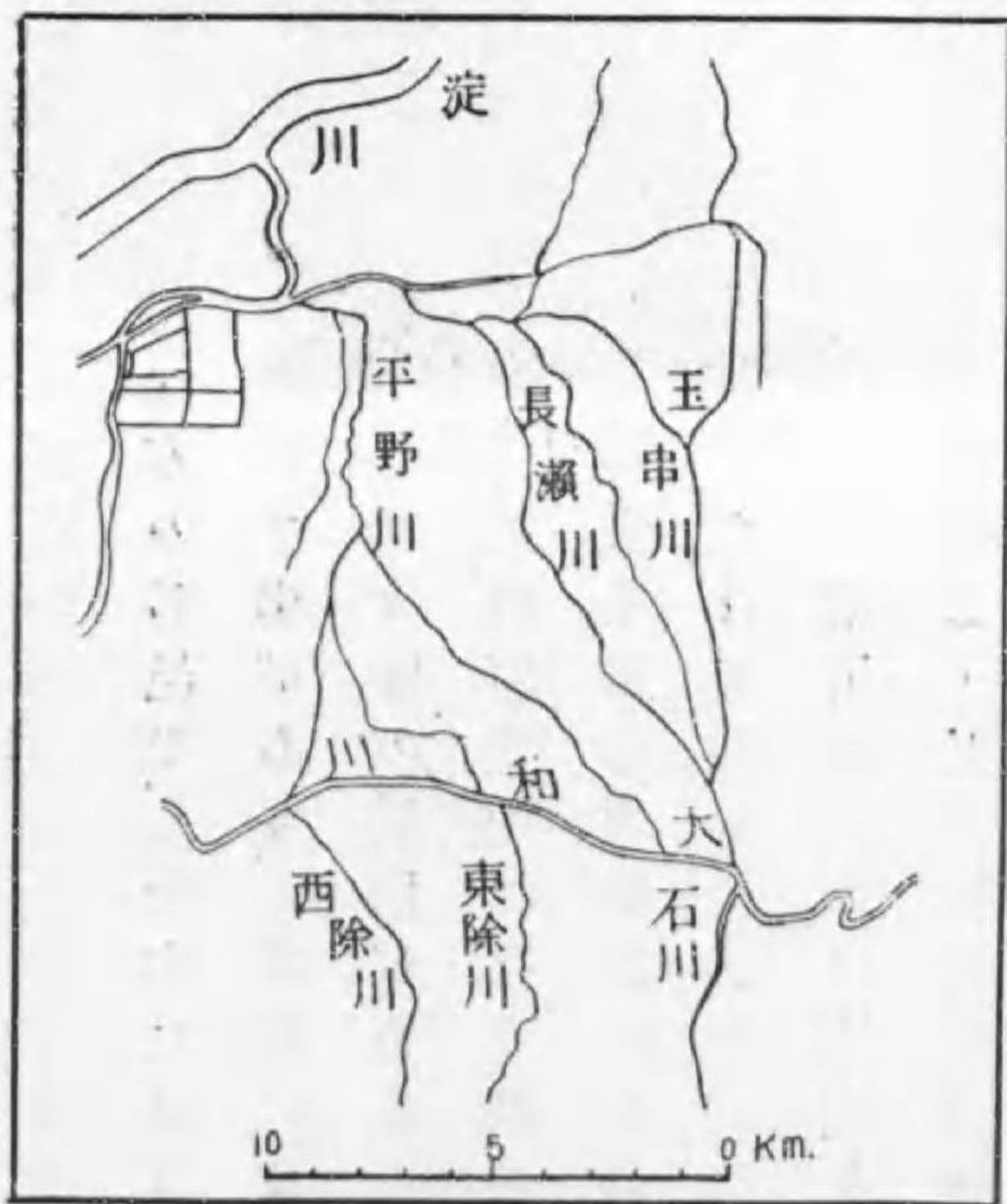
流宇治川は、水力發電にも利用せられ、其の電力は多く大阪市へ供給せられてゐる。

淀川の河水は流域を灌漑し、又上水として大阪市民の飲料水となり、上

第三節 大和川及び其の流域

大和川は奈良盆地の諸水を盆地の西部に集めて龜ノ瀬の横谷を下り、柏原附近で葛城山麓を流れる石川を入れ、西流して大阪灣に注ぐ。全長約五十七粁。

此の川はもと柏原附近から西北へ流れて、長瀬川・玉串川・平野川等に分流して上流から運んで来た土砂を堆積せしめ、生駒山麓に鳥趾状三角洲をつくつて淀



大和川河道變遷圖

川に合してゐた。

昔時は大和地方との重要な交通路であつたが、舟運は上流地方の森林濫伐のため、だん／＼河水が涸渴して其の便を失ひ、又雨季には氾濫して土砂の流出が甚だしかつたのでたび／＼改修工事が施された。現在大和川は柏原附近から西流して直に大阪灣に注いでゐるが、これは元祿以後の事であつて河内地方は灌漑の便を得るに至つたが、土砂の流出は遂に堺港をして大船を入れることが出来



龜ノ瀬横谷

峠の地入り

昭和六年十一月頃から起つた峠地方の地入りは龜ノ瀬のトンネルを埋没し、又大和川の河床を隆起せしめ、爲めに鐵道關西線をして左岸を迂回するに至らしめた。

國府石器時代遺蹟地が最も有名である。



八尾附近の村案

(る依に圖形地一分萬五部量測地陸)

此の流域は古代最も早く開けた地方で石器時代の遺蹟や御

應神天皇陵を始め多くの御陵がある。八尾町は門前町として發達したものである。玉手山は遊園地として著はれてゐる。

陵墓を始め多くの古墳及び古社寺等がある。三角洲面には灌漑農業が盛であつて、平野や八尾等の聚落が其の中心をなし、又大和川の横谷附近の傾斜地には葡萄の栽培が盛で、石川の洪涵地には富田林や長野等の聚落が發達してゐる。これ等の聚落は寺院を中心として聚村をなしてゐる。こゝを鐵道關西線や、大鐵・南海高野線・大軌等の電車が縦横に走つてだん／＼都會化せしめてゐる。

富田林は石川流域の中心をなし、門前町として發達したものである。附近は楠公誕生地で赤阪城址・千早城址等の遺蹟に富み、又觀心寺・金剛寺等の名刹がある。

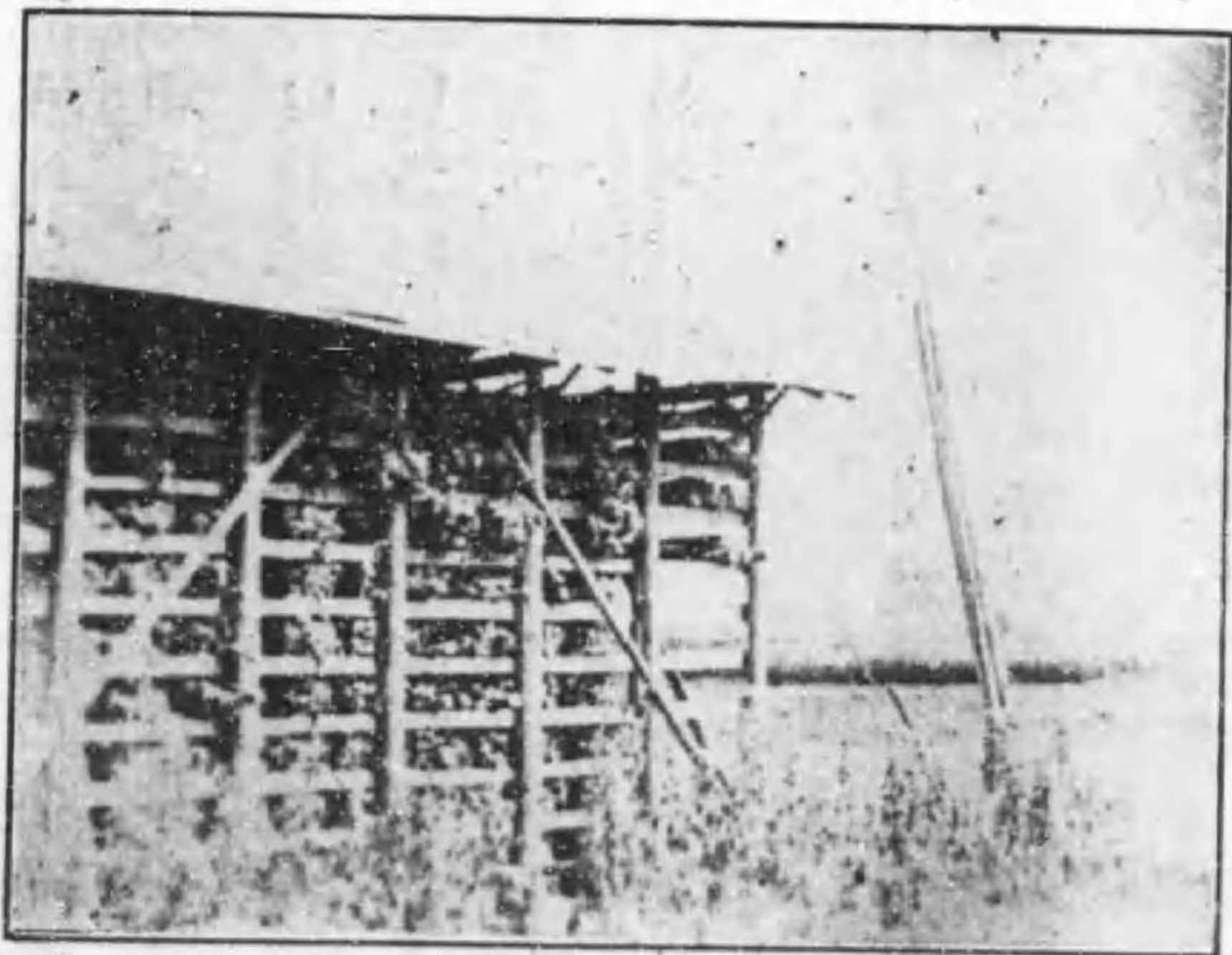
大和川は水質が良いために染織工業が起り、堺市の工業は此の水を利用してゐる。又上水としては堺市民の飲料水となつてゐるが、毎年夏季には斷水の憂ひがある。

第四節 和泉海岸平野

大和川以南、和泉の海岸地方には一帯の平野が発達してゐる。和泉丘陵を流下する石津川・榎尾川・近木川・櫛井川等が潤してゐる。

此の海岸平野は灌漑農業が盛で、泉南地方には、葱頭の栽培が多く、又丘陵地には柑橘を多く産する。

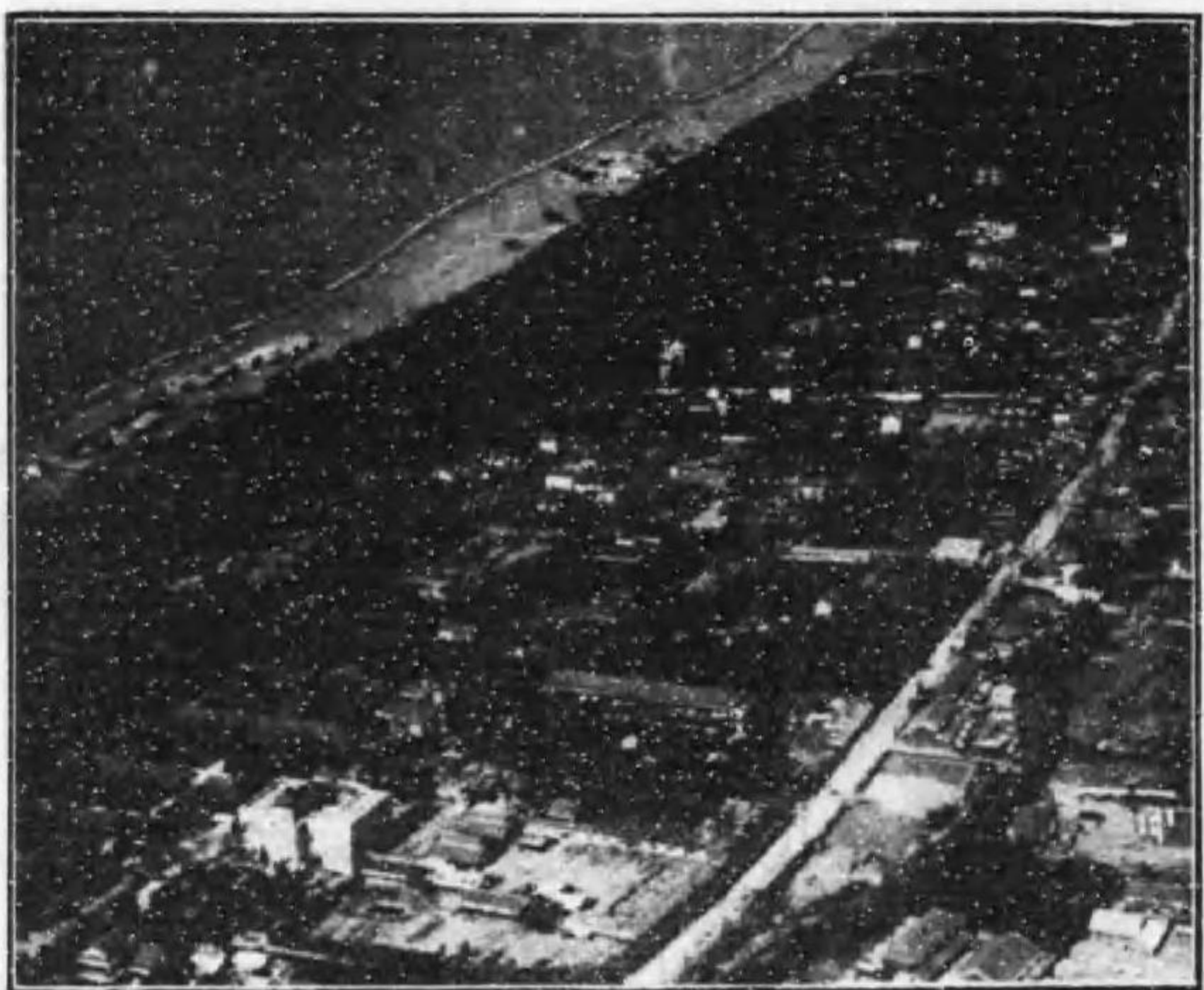
此の地方は堺岸和田佐野等を始め附近の聚落に染織工業が盛で大阪湾沿岸工業地帯の一部をなしてゐる。これは水陸交通の便と和泉丘陵を流下する諸川の水質とに負



和泉の小屋

大濱には水上飛行場がある。信太山には野砲兵聯隊があり、附近は演習地をなす。

阪和沿線には砂川の奇勝がある。



森濱寺・羽衣高師ノ濱・上野芝等多くの住宅地が整備発達しつつある。

ふ所が多いのである。

海岸一帯は砂濱で、又冬季西北風を防ぐものがないために良港をなさないが、遊園地、海水浴場として発達し、大濱濱寺等は殊に著れてゐる。又地曳網に

よる鱈漁其の他の水産物が多い。交通線には南海電車、阪和電車があつて、大阪和歌山間を連絡してゐる。此の沿線には諏訪

第五節 武庫平野

大阪平野の西北部猪名川・武庫川の下流地方及び六甲山塊の山麓一帯を武庫平野と稱する。此の地域は東部は猪名川・武庫川の沖積平原をなしてゐるが、西部地方は六甲山塊から發する小河川に依つて形成せられた複合扇狀地である。此の平野の大部は行政上兵庫縣に屬する。



阪神沿線の落葉(崎魚)

池田、伊丹は清酒の醸造地である。

猪名川は老ノ坂山脈から發して南下し、能勢川等を合せて池田附近から沖積平野に出る。下流は二派に分れて神崎川に合する。全長約三十五軒、流域には池田・伊丹・尼ヶ崎等の聚落が發達してゐる。

池田は猪名川の谷の出口に發達した山麓の名邑で、吳服神社や伊居太神社を以て知られ、又清酒の醸造業が盛である。附近には植木



池田

の栽培が多い。

武庫川は丹波篠山附近を水源として、東南に流れて生瀬の峡谷を下り、寶塚附近から沖積平原に出で、猪名川と並行して大阪灣に入る。下流には三角洲を發達せしめてゐる。全長五十餘浬。流域には寶塚西ノ宮等の聚落が著れてゐる。

六甲山麓の扇狀地は夙川・芦屋川・住吉川・湊川等の諸水によつてつくられた狭長なる地域で、これ等の河川は谷の出口で急流や瀑布をなし、其の下流は天井川となつて流れるものが



(園子甲濱)地宅住線沿神阪

寶塚には鑛泉の湧出がある。

瀑布線には水車が多く水車谷と呼ばれてゐる。

多い。此の地域は花崗岩の土砂からなり、水質が清酒の醸造に適するので、灘地方の醸造業發達の一因をなしてゐる。又此の地は古來海陸交通の重要地帯にあつてゐるために神戸港が發達してゐる。

武庫平野は肥沃なる農業地をなし、又大阪灣沿岸工業地帯をなすがために大小の聚落が發達し、これ等の間を縫つて、鐵道東海道線や福知山線の外に阪神阪急阪神國道線等の電車が走り、交通頻繁目も眩むばかりである。これ等の沿線には住宅地、遊園地、運動場、



場球野園子甲

線には住宅地、遊園地、運動場、

阪急沿線石橋には
浪速高等学校、盤
ヶ池には大阪商業
専門学校がある。
箕面公園の箕面の
瀨は高さ三十三米
程ある。
又勝尾寺、湊安寺
の古刹がある。

海水浴場等が整備發達してゐる。
住宅地には六甲山麓の御影・住吉・芦屋・武庫平野の岡・町・豊・中・雲
雀・ヶ・丘等が著はれ、遊園地には寶塚・箕面等があり、運動場には
甲子園、海水浴場には香櫨園・濱甲子園・濱等が有名である。

第四章 氣候と人文

大阪平野の氣候は概して溫暖で、
年平均溫度が攝氏の約十五度である。
夏季は溫度が稍高くて八月には平均
溫度が攝氏二十七度以上に達する。
冬季二月の平均溫度は攝氏五度位で
割合に高い。これは大阪灣に和げら

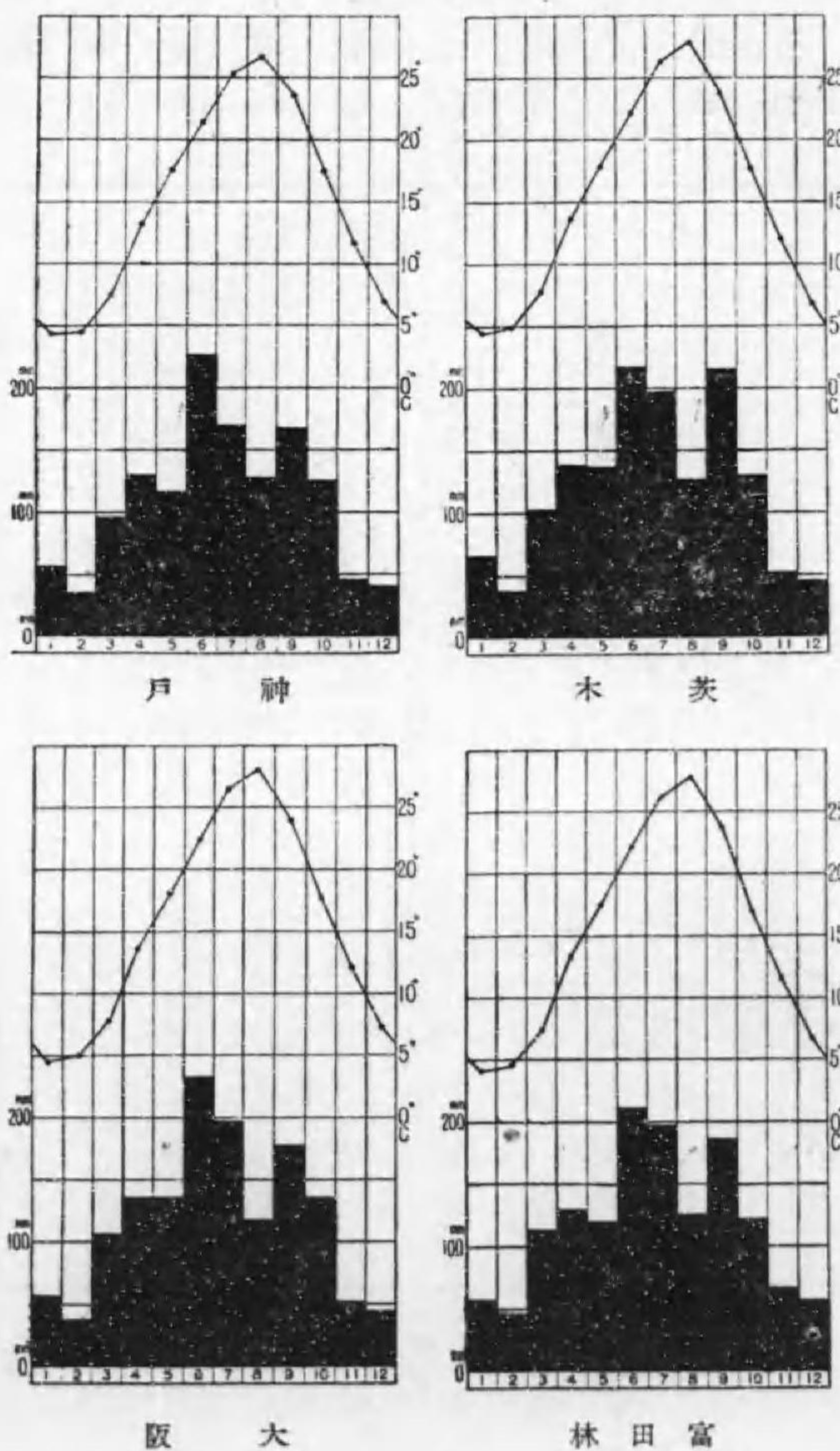


天巻小屋

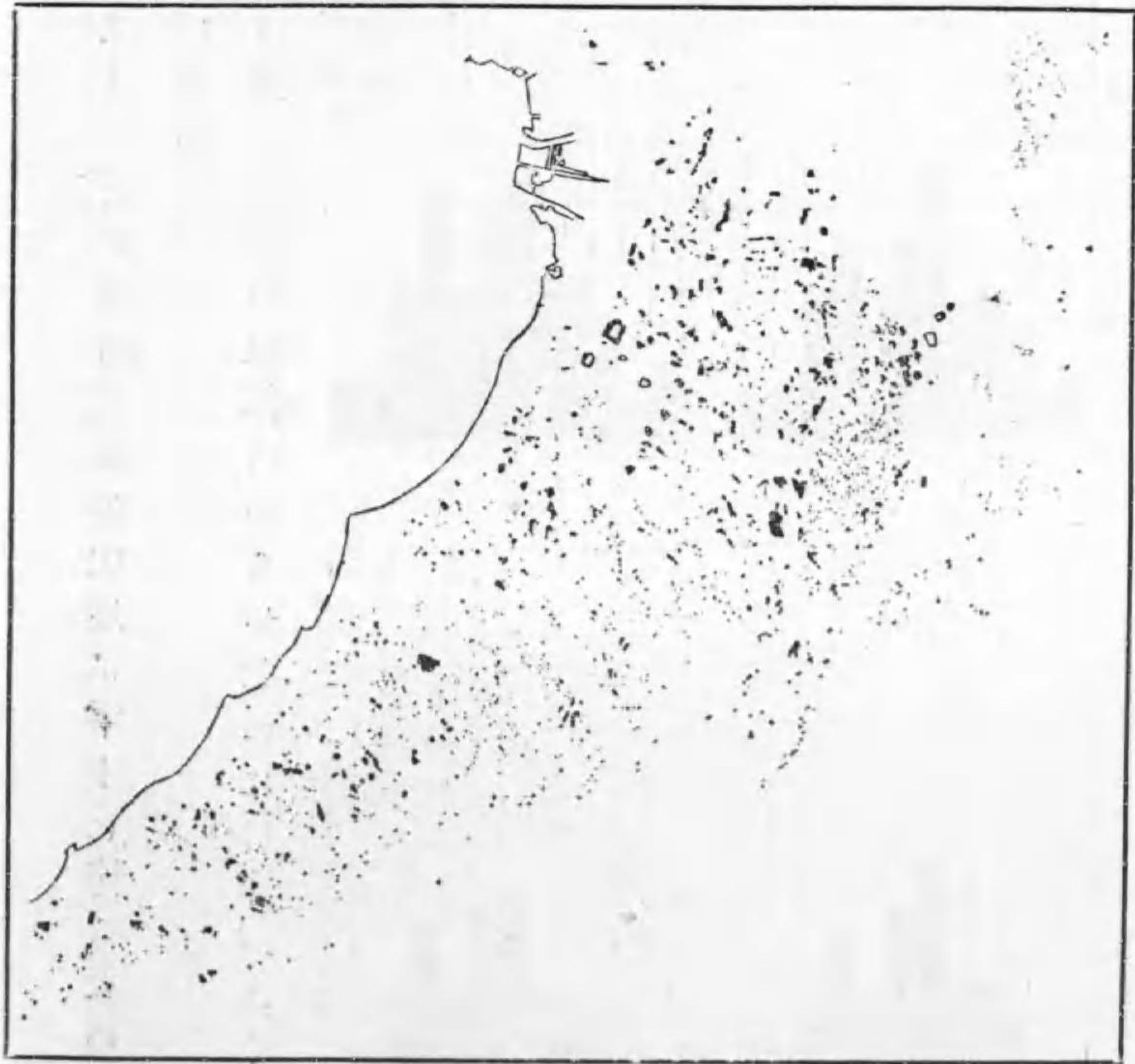
れるからである。それでも北部の山地は零下に降るために寒天
の製造が行はれる。

此の地方は瀬戸内海の東部にあるがために日照がよく続き、

氣候のグラフ



乾燥性で雨が少い。降水量は年平均千二百耗乃至千三百耗で夏季は割合に豪雨が多い。周囲の山地から流れ出す河川は、

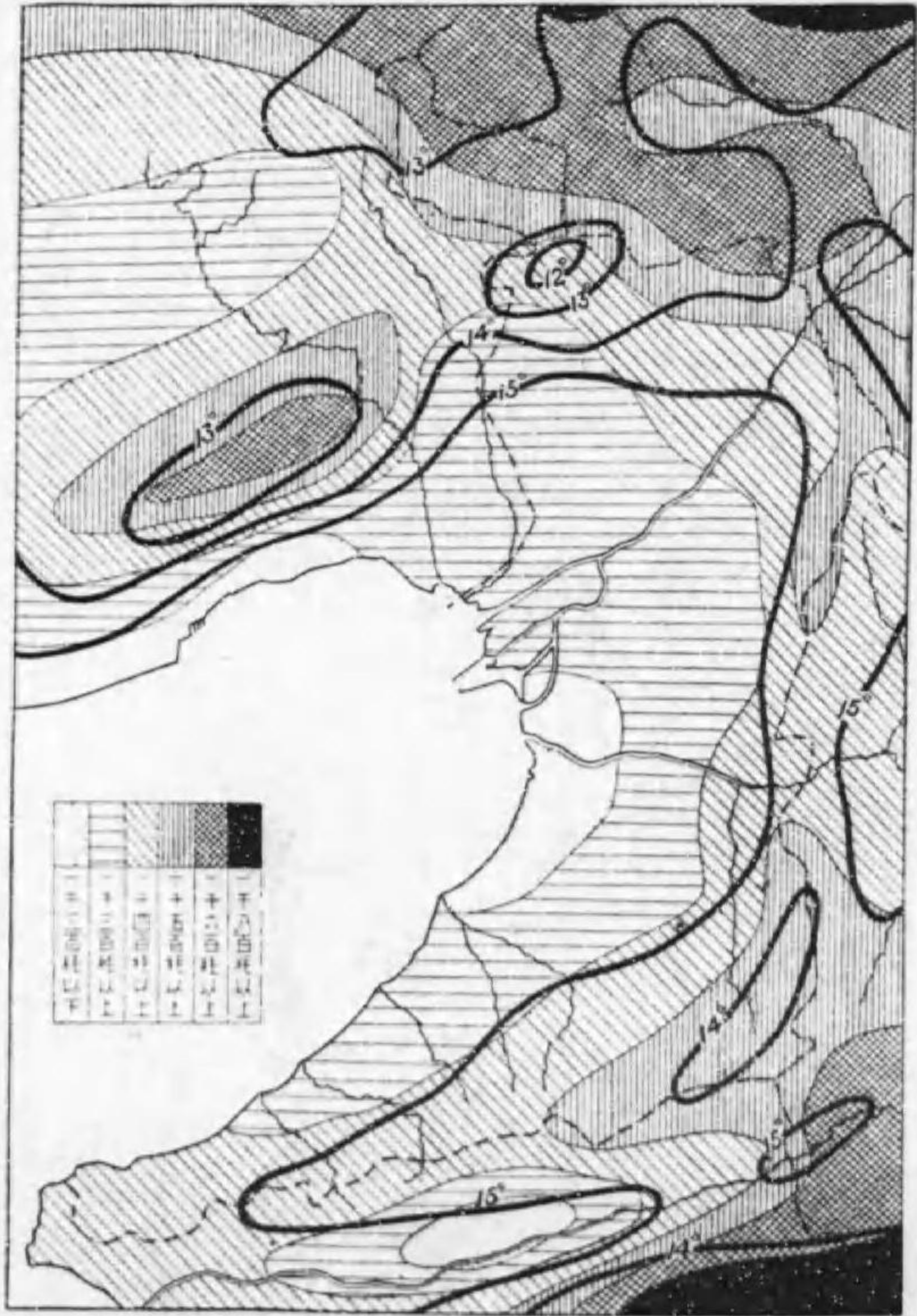


大阪平野南部の池沼分布圖

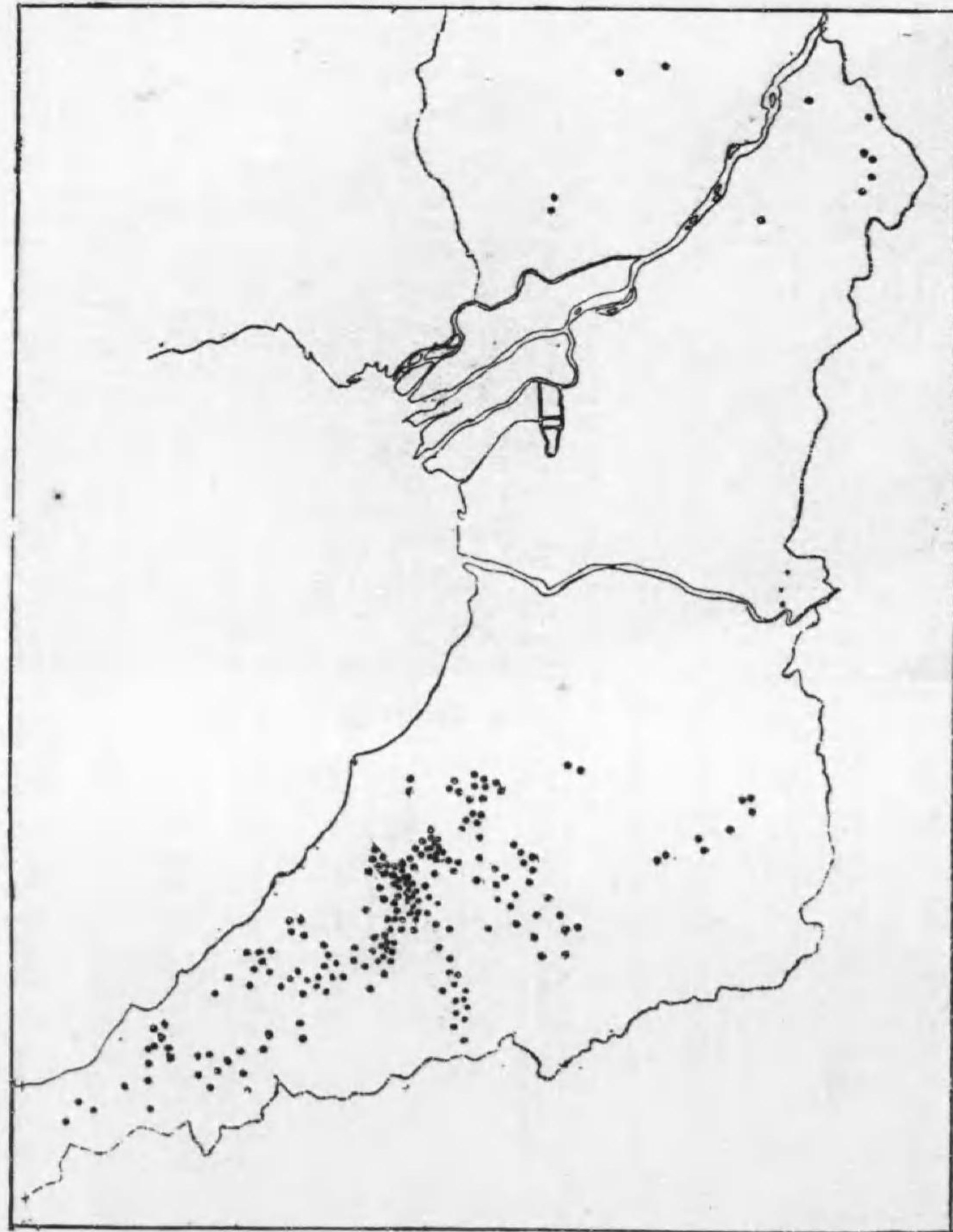
平時水量が乏しく霪爛した花崗岩の土砂からなる河原が白く續いてゐるが、夏季は氾濫することが多い。

大阪平野には降水量の少いたため種々の灌漑法が行はれてゐて、

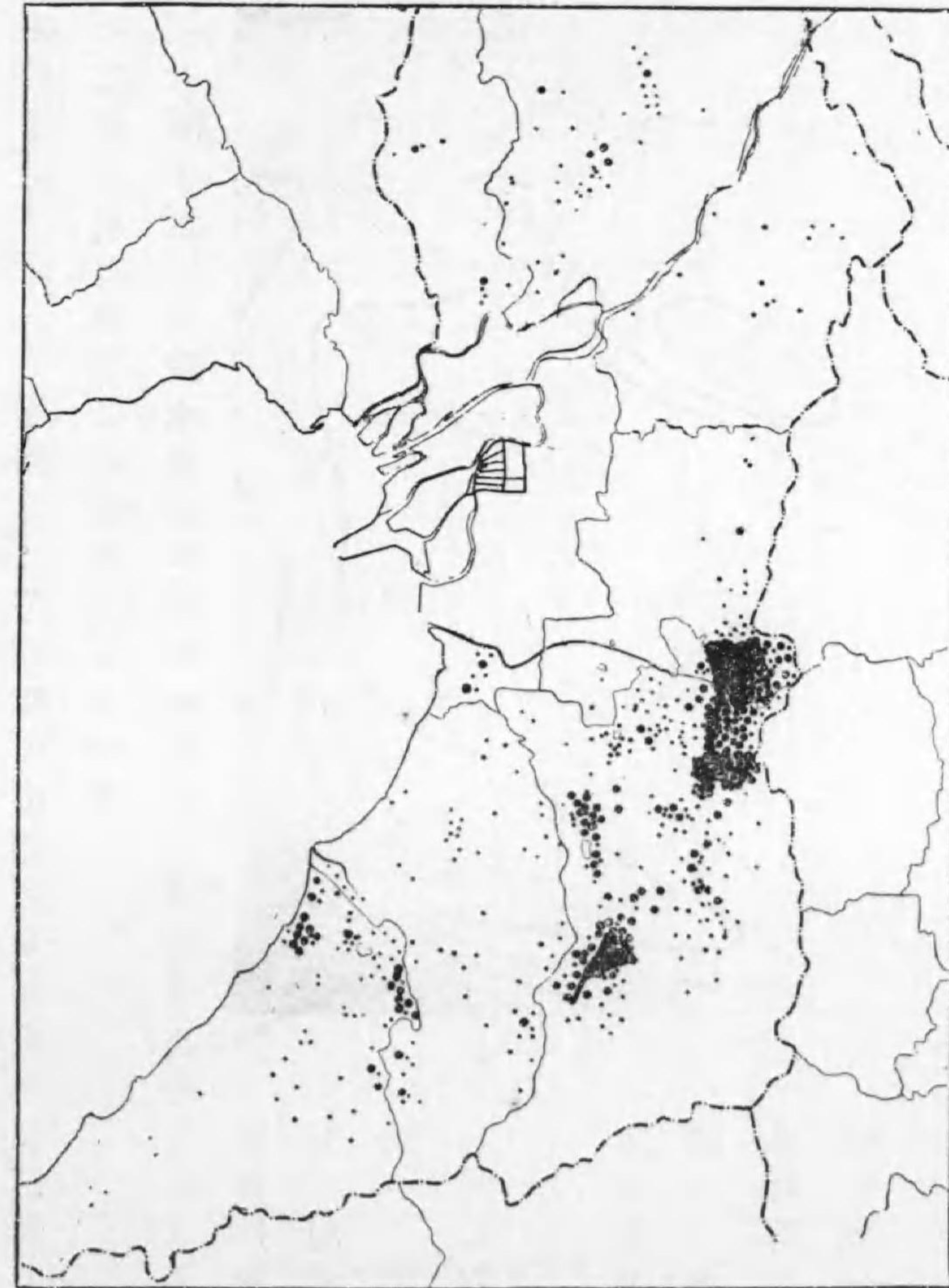
野井戸を穿ち、池沼を掘つて灌漑してゐる所もある。又大和川、石川、溪谷に葡萄、蜜柑等の果樹の栽培の盛なのは氣



氣象泉圖



圖布分產生の柑
(す示を貫千二は點一)



圖布分產生の葡萄
(す示を貫千一は點小貫萬一は點大)

神戸港は自然の港で大阪港は人工の港である。



畑 葡萄 の 下 堅

候の乾燥性に負ふところが多い。
冬季は西北の季節風が甚だ強いが降雪量は少く、平野には積雪を見ることは殆ど稀である。
此の西北風のために淀川下流及び和泉の海岸には船舶の碇泊に不利であるが、六甲山麓には神戸港を發達せしめてゐる。
夏季好晴が続いて温度が上昇すると、きまつて海軟

風。陸軟風がそよそよと吹いて之れを和げる。此の海陸軟風の交替期には無風状態となり、殊に夕風には蒸し暑くて堪へられない。しかし此の海陸軟風を利用して野井戸の水を汲み上げる風車は平野の一風景である。

第五章 大阪市

第一節 概説

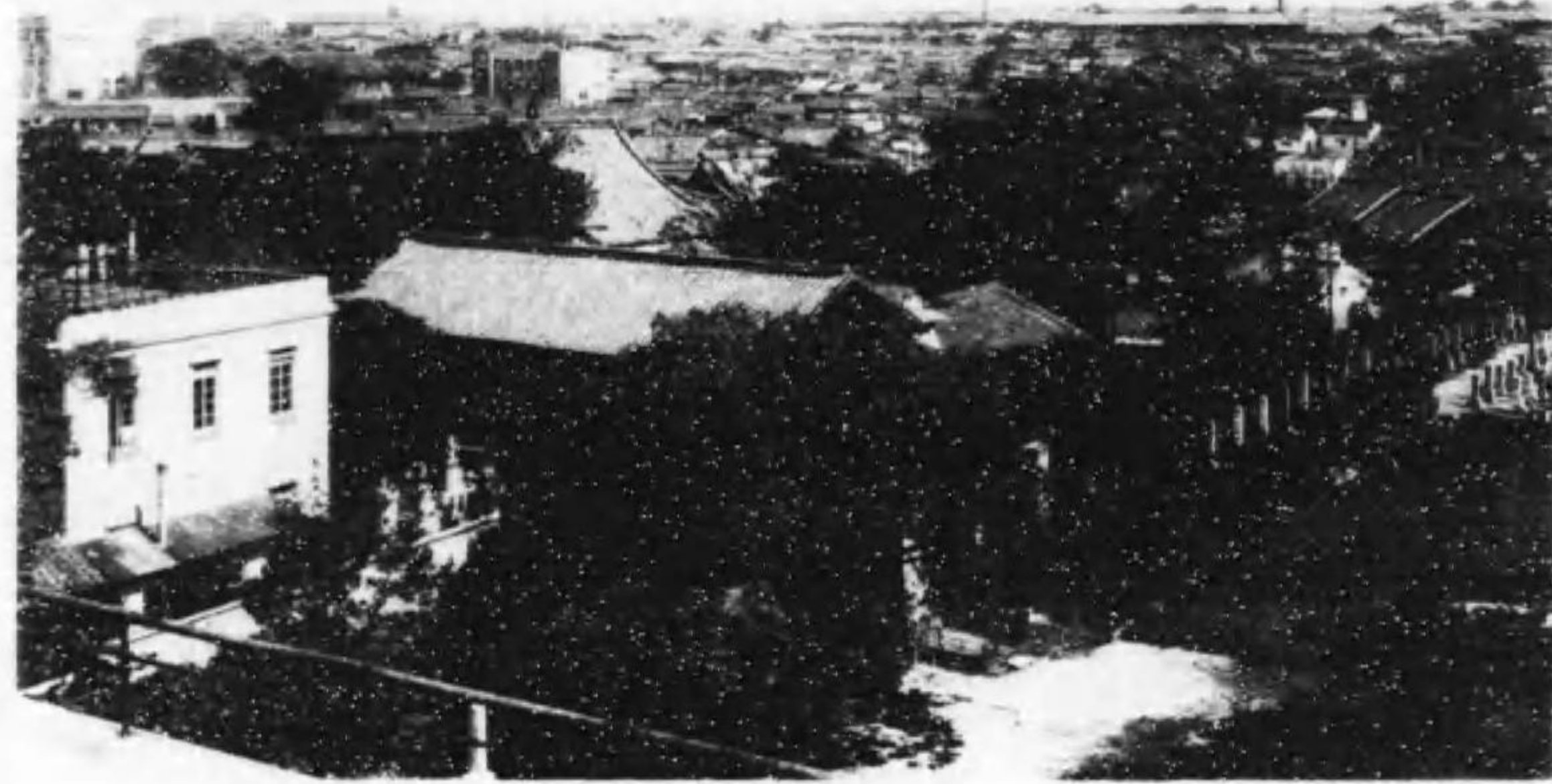
淀川の三角洲の上に發達した大阪市は其の面積百八十一方軒、人口二百四十五萬に及び



車 風 と 戸 井 野

第四師團司令部
 第八聯隊
 第三十七聯隊
 輜重兵大隊
 大阪帝國大學
 大阪商科大學
 大阪工業大學
 大阪府女子專門學校
 大阪高等學校
 大阪外國語學校
 高津神社
 阿部野神社
 住吉神社
 公園には、
 中之島、天王寺、
 扇町、淀川、住ノ
 江、住吉等の公園
 がある。

我が國六大都市中東京市に次ぎ、世界では紐育・東京・倫敦・柏林・巴里・市・俄古に次いで第七位の大都市をなしてゐる。
 市街の大部は淀川の本支流及び其の運河や堀江に跨つてゐるが、一部は市の中央から南部へ連つてゐる上町臺地に延び、尙東部は舊大和川下流の三角洲まで擴がつてゐる。
 市の主力は淀川下流の地域であつて、重要な商工業區をなし、船場・島ノ内は古來著れてゐる。又近年築港が完成してからは横濱・神戸・名古屋と共に我が國の四大貿易港として重要な位置を占めてゐる。臺地の^上町方面は主に住宅地域をなし、兵營や學校等も多く、又大阪城・四天王寺及び生國魂神社等の名勝舊蹟や神社佛閣が多い。東部の低地は大阪市に新しく編入された地域であつて、多くは住宅地域をなしてゐる。



上町(寺附近)



四天王寺

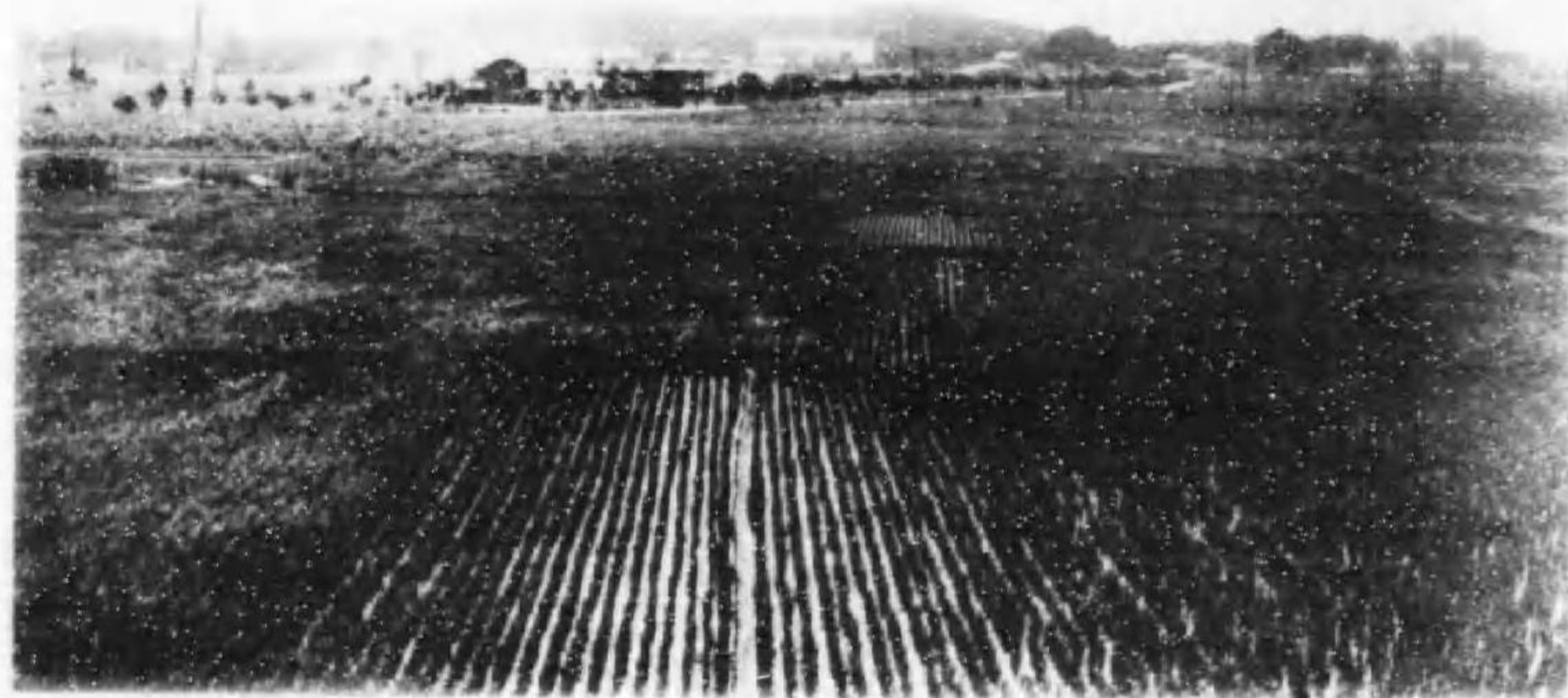


大 阪 城

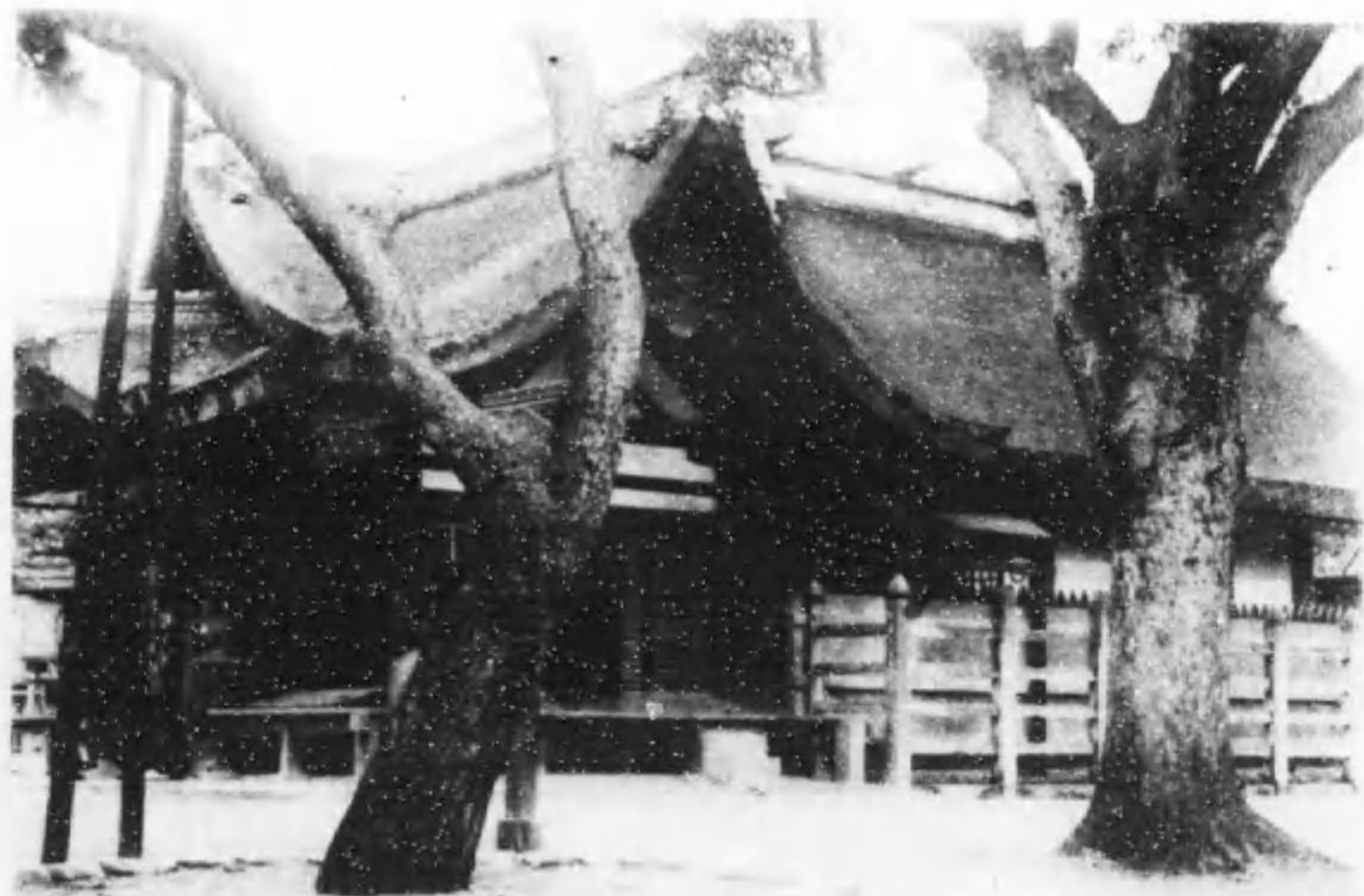
難波 大阪の地は昔時「難波」と稱せられ、淀川大和川の水路によつて奈良や京都の都を後背地として往昔既に發達してゐた。上古韓土との交通が開けると應神天皇は大隅宮を營ませられ、又仁徳天皇は高津宮を奠めさせられた。推古天皇の御代には聖徳太子は四天王寺を建立せられた。

中古に及び孝徳天皇は長柄豊碕宮に都せられ、以後も奈良時代に至るまで別都としてつゞいてゐた。聖武天皇はこゝに都を奠めさせられたこ

第二節 大阪市の發達



大 仙 陵



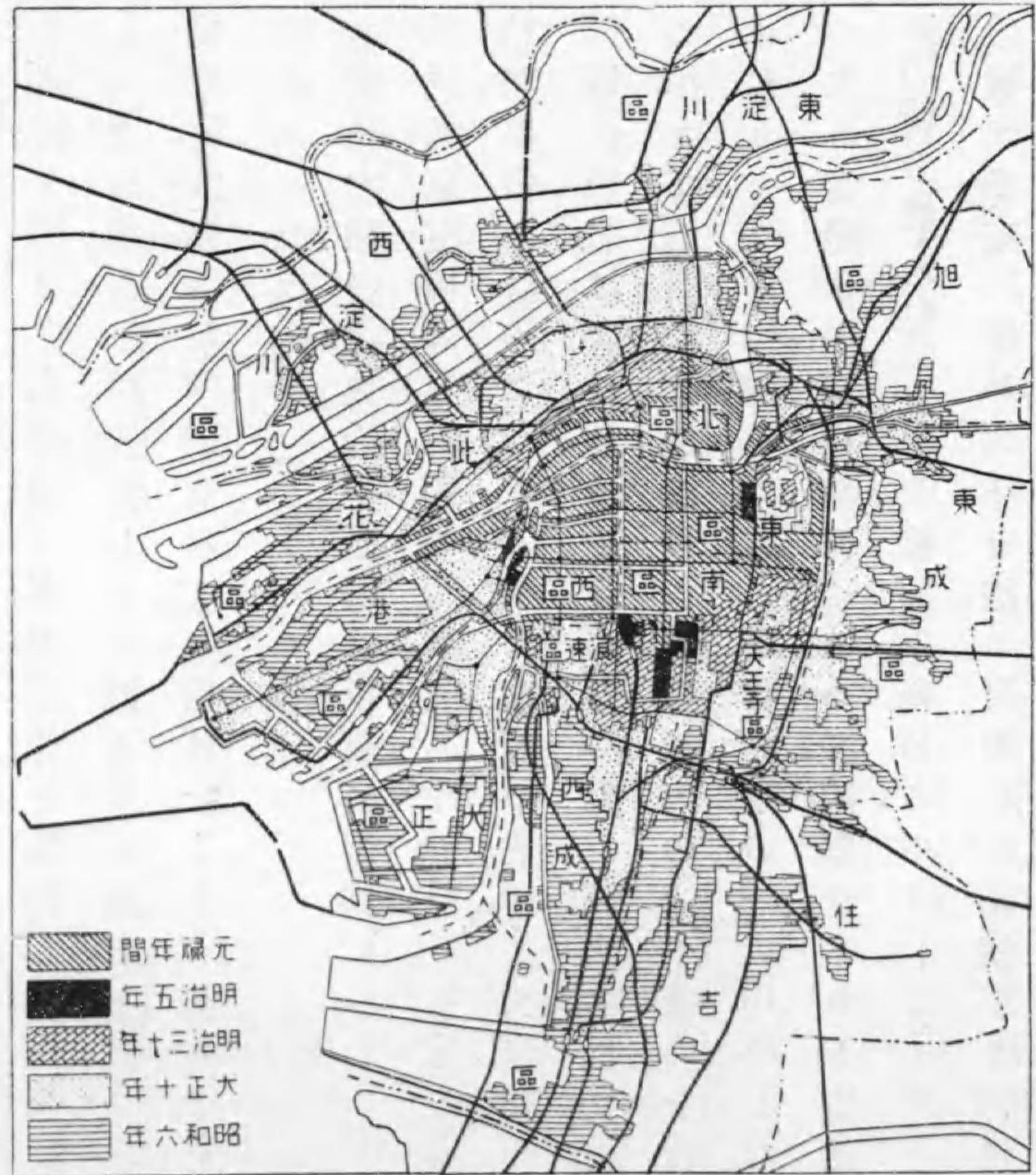
住 吉 神 社

とがあつた。

平安時代になると神崎川が重要な水路となり、大物浦が其の門戸を爲すことになつた爲めに武庫水門が開けて、難波の地はだん／＼衰へて來た。降つて室町時代に至ると堺港が發達して、難波は唯四天王寺や住吉熊野等への參詣者の往來を見るに過ぎなかつた。

門前町 然るに土御門天皇の明應五年に蓮如上人が上町臺地の北端に石山本願寺を建立して、方八町の地に門前町を營んだ。これぞ近世大阪の起りであつて「大阪」の名稱も此の頃から用ひられるやうになつた。

石山本願寺は正親町天皇の御代、天正八年に織田信長の有に歸し一時荒廢したが、天正十一年に豊臣秀吉が其の址に大阪城を築くに及んで、今の大大阪の基礎が確立されることになつた。



大阪市の城擴張圖

町 吉は生 玉玉造 渡邊の 地を合 せて宏 大な城 廓をつ くり、 船場島 ノ内天 滿方面 城下

の洲渚を開き、東横堀・天満堀・川等を開鑿して縦横に街衢を整理し、堺の商人を移住せしめて城下町の發展を計つた。次いで西横堀・阿波堀等が開鑿されて市街はいよ／＼般賑を極めるやうになつた。

慶長・元和の役後松平忠明は市街の復興につとめ、更に道頓堀・江戸堀・京町堀等を開鑿し、伏見八十餘町の町家を移して街衢の整理擴張を計つた。これから南組、北組、天満組の所謂「大阪三郷」の名は著はれるやうになつた。諸大名は又淀川の本支流に沿うて「藏屋敷」を設け、其の領内の米や物産を賣買するやうになり、百貨輻湊して遂に全國商業の一大中心となることになつた。元祿年中河村瑞軒に依つて開鑿せられた安治川の如きは「出船千艘入船千艘」の雜踏を極めるやうになつた。

近代都市 明治以後は益々發展して河港より海港に進み、一

道頓堀は安井道頓の開掘したものである。

大築港を完成して支那・印度・南洋方面に航路を開き、一躍大貿易港となつて來た。又水運の便は工業の發達を促し、商業と相俟つて其の盛なることは、我が國の諸都市に冠絶してゐる。これが爲めに人口の集中甚だしく、市域はいよ／＼膨脹するに至り、大正十四年四月市域の大擴張を行ひ、接續町村を併合して「大大阪」を建設することになつた。從來、東・西・南・北の四區であつたが、東淀川・西淀川・此花港・西成・東成・天王寺・浪速・住吉の九區を加へて十三區となり、更に昭和七年十月に至り大正區と旭區が設けられて今は十五區となつてゐる。



藏屋敷

第三節 商業

商業の發達 大阪に於ける商業の發達は徳川時代に諸國の大名が藏屋敷を設けて、領内の米や物産を賣買するやうになつてからである。藏屋敷の起りは豊臣時代に加賀藩が毎年米十萬石づつ、大阪の藩邸に送つて販賣したのが初めであつて、徳川時代になると諸大名が競つて其の領内から米や其の他物産を運搬して來て盛に取引するやうになつた。十代將軍家治の頃には藏屋敷の數は百十餘個所に多きに及んだ。これ等の藏屋敷の多くは天滿中之島堂島土佐堀江戸堀等の水運の便利なところに集つてゐた。従つてこゝに堂島の米市場、天滿の青物市場、雜喉場の魚市場の三大市場がだん／＼發達するやうになつた。維新後は藏屋敷は廢止されたが、依然として全國物資の大集散地をなし、



大前驛前



心齋橋筋



倉
揚場

圖布分の揚場・倉
(る依に圖附の理地本日管中新著田中)



グンデルピの近附島之中

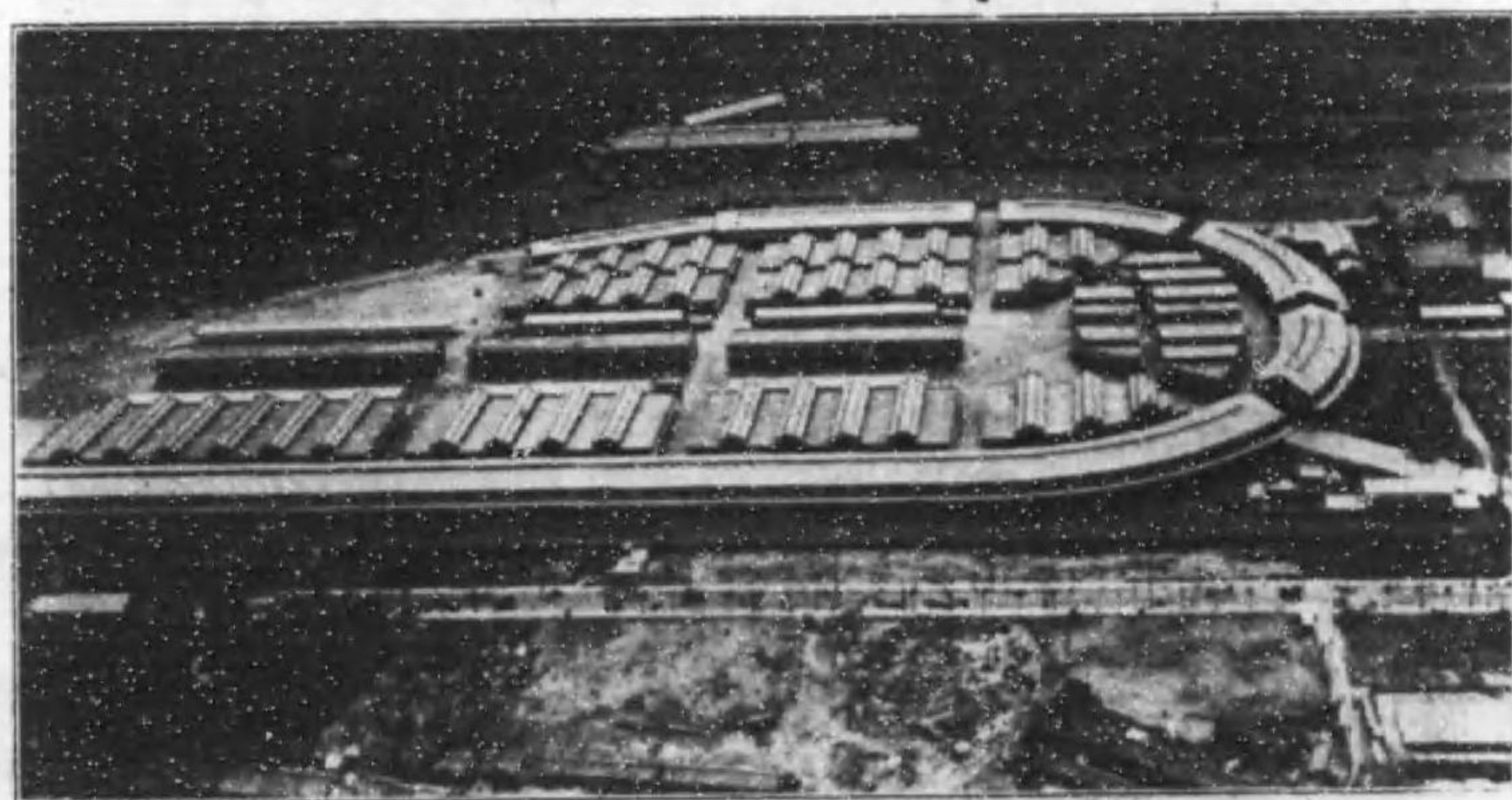


岡公島之中

三大市場は益々發展して來たが、昭和七年三月合併して中央市場となり、堂島の米市場は米穀取引所となつて共に殷賑を極めてゐる。

商業區 商業區は市の中央部船場島ノ内堂島中之島方面であつて、中之島の日本銀行支店、堂島の米穀取引所、商工會議所、北濱の株式取引所、北久太郎町の三品取引所、内本町の貿易館等の商業機關、銀行、會社及び大阪朝日新聞社、大阪毎日新聞社等がある。

主要街堺筋・日本橋筋には三越・高島



中央市場

都市計劃による御堂筋は北は淀屋橋大江橋を渡つて阪急前に至り南は難波驛に至る。市街を南北に貫く重要幹線をなすものである。朝日ビルの屋上には航空標式がある。

屋松坂屋、心齋橋筋には大丸十合等の百貨店、大商賈が軒を並べ、堂島阪急朝日南海高島屋その他多くの壯大なビルディングは天を摩してゐる。

船場島ノ内には問屋が多く、問屋町をなしてゐるが、本町南本町の呉服太物店、久寶寺町の小間物商、道修町の藥種商、谷町筋の洋服商の如く同種類の大商店が軒を連ねてゐるのは大阪市



北濱株式取引場

の一特色である。

内國商業 水陸交通機關の完備と工業の勃興とは大阪市をして我が國商業の大中心地たらしめた。今其の一年間の出入貨物噸數及び價格を擧げると、入貨は千四百四十萬噸、二十九億一千九百萬圓で、出貨は一千萬噸、三十四億七千七百萬圓にのぼつてゐる。又手形交換高は二百二十億圓に達し、全國總計の約三割を占めてゐる。これ等取引の商圏を見ると近畿は勿論、中國四國九州より、東は中部地方を包含する西南日本を根據とし、更に日本海沿岸から北海道樺太に及び、西は臺灣朝鮮等を其の勢力圏としてゐる。

外國貿易 貿易は多くは神戸港を外港として行はれてゐたが、近年築港の完成により長足の進歩をなし、其の貿易額は七億圓以上に及び、神戸横濱に次いで我が國貿易港中第三位を占めて

ある。そして輸出額は輸入額よりも多く年々一億圓以上の超過額を示してゐる。輸出品の主なるものは綿織物・綿糸が最も多く、銅板及び眞鍮板・鐵及び鐵製品・機械類・洋紙・硝子類・石鹼・精糖・帽子・履物・足袋・鈕釦・刷毛・玩具等が之に次ぎ、全製品は輸出總額の約八割餘を占めてゐる。輸入品の主なるものは、繰綿を第一として之れに次ぐものは鐵類・羊毛・自動車及び其の部分品・粗糖・毛織物・種子類・石炭・錫・亞鉛・銅・鉛・皮革類・肉類等で原料品は輸入總額の約六割にあつてゐる。

貿易國の主なるものは支那・英領印度・北米合衆國・關東州・蘭領印度・濠洲等で、輸出の五割餘は支那で、輸入の約三割は北米合衆國である。

近年阿弗利加への輸出も増加しつつある。

第四節 工業

工業の發達 海陸交通の便と、原動力の得易いによつて大阪灣沿岸一帯の地に工業の發達を促すに至つた。殊に大阪平野は古來我が國文化の中心をなし人口稠密で大阪・神戸等の大都市が發達して内外商業の大中心地となり、豊富なる資本の大集積地となるに及んで、之れ等の都市の内外には各種の大工業が勃興して所謂大阪灣沿岸工業地帯をなすに至つた。此の工業地帯は彼の東京灣沿岸・伊勢海沿岸及び九州北部と共に我が國の大工業地帯の一であつて、大阪を中心として西は尼ヶ崎・西ノ宮・神戸等を連ね、南は堺岸・和田・和歌山方面に亘つてゐる。

工業區 大阪市の工業區は市の北部から西部へかけて、淀川の本支流及び之を連ねる運河や堀江に沿うて大小の工場が無數

和歌山には綿ネル工業が盛である。

に並んでゐる。殊に鐘ヶ淵紡績東洋紡績大本紡績等の紡績工場を初め、大阪鐵工場藤永田造船所汽車製造會社住友伸銅所等は我が國屈指の大工



大阪工業地帯の工場分布

場である。

工業の種類 大阪府の工業生産額十四億八千萬圓中其の十一億二千萬圓は大阪市がこれを占めてゐる。其の工業の種類を挙げると、染織工業は綿糸紡績業綿織物業毛紡績業麻紡績業莫大小製造業等を其の主なるものとし、中にも綿糸紡績業と綿織物業と莫大小製造業とは何れも全國第一の生産地である。

機械及び器具工業の主なるものは造船業車輛製造業電信機械器具製造業金屬製品業等で、金屬製品にはアンチモニー製品アルミニウム製品等がある。

化学工業としては工業用藥品醫療藥品賣藥塗料顔料人造肥料製造工業及び燐寸硝子石鹼セルロイドセメント護謨植物性油脂工業等は其の主なるもので、就中製藥業塗料顔料製造工業、植物性油脂工業セルロイド工業は我が國に於て最も盛で、人造肥

料製造工業石鹼工業は之れに次いでゐる。

其の他、飲食物工業には清涼飲料味噌穀粉罐詰食料等の製造業が發達し、又雜工業には玩具製造業鈕釦製造業帽子製造業刷毛製造業等の外に、履物傘提灯扇子團扇の製造業等が盛で、中にも玩具帽子は我が國に於ける主要なる生産地である。特別工業は金屬製煉電氣瓦斯事業及び計量器類製造業



大阪市場地帯

等が盛大である。

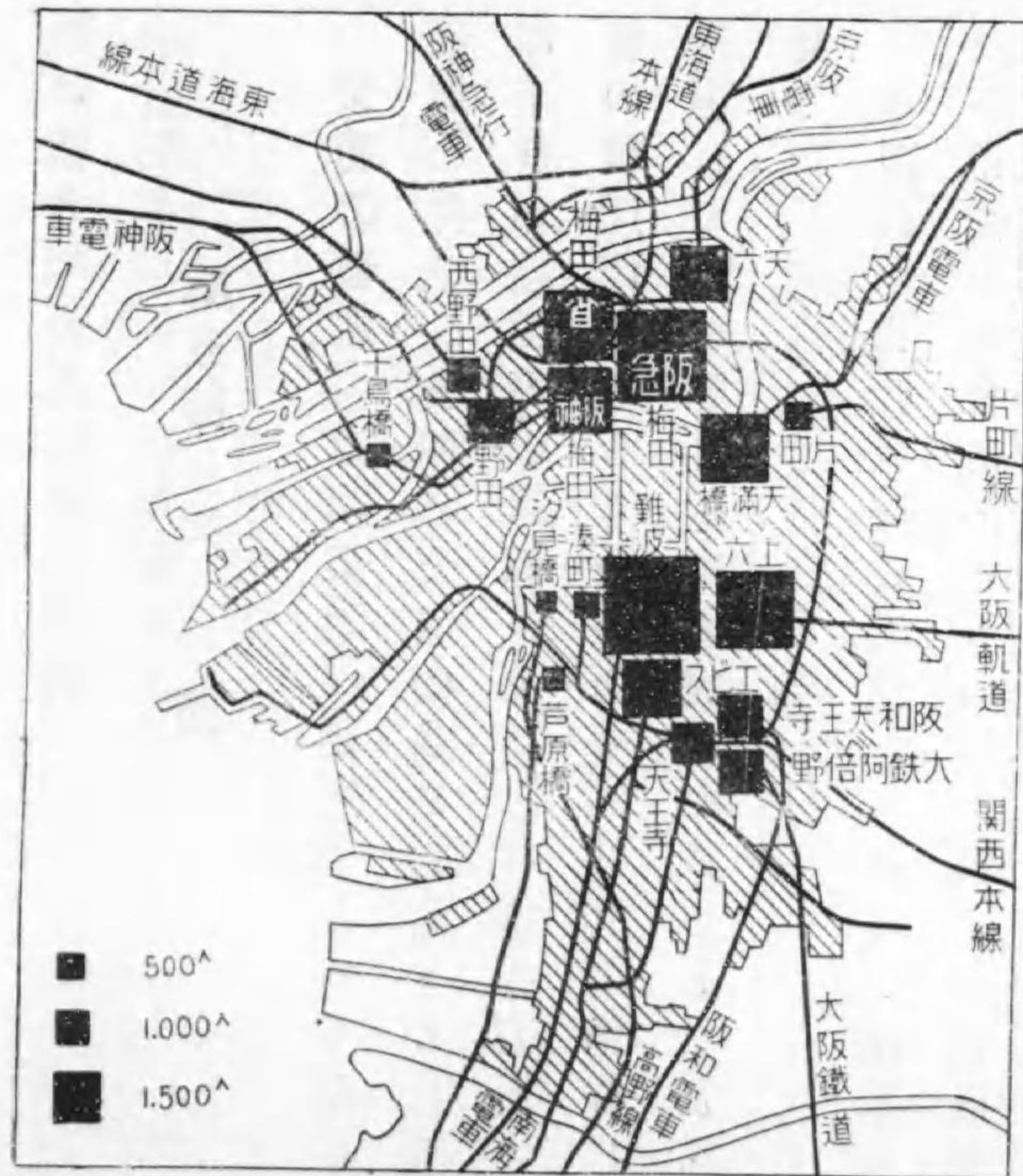
第五節 交通

交通の發達 海陸交通の要衝を占めてゐる大阪市は商工業の發展に伴ひ、各種の交通機關が完備するに至つた。殊に神戸京都奈良和歌山等の諸都市及び之れ等各方面の名勝舊蹟との連絡線の發達は著しきものがある。又其の沿線には多くの住宅地が發達して實に郊外電車の完備せることに於ては全國に其の比を見ない。

市内には市營並びに其他の電車線、鐵道城東線西成線臨港線及び市營バス會社バス等の外に數千台の自動車走り、又運河や堀江には無数の船が縦横に往復して交通の頻繁なることが如き有様である。

城東線は電化してゐる。

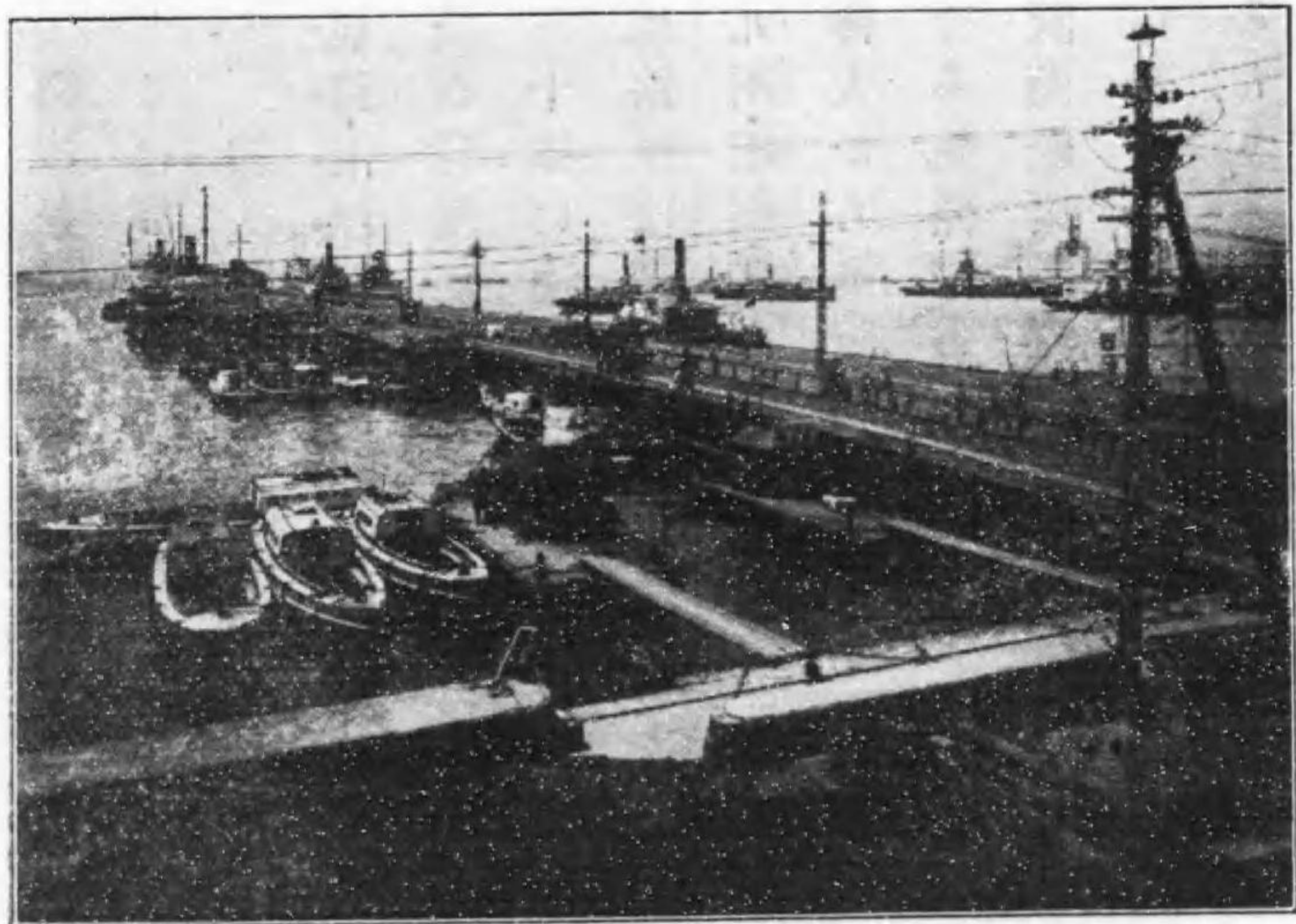
鐵道及び軌道 大阪市の北部には梅田附近を中心として阪神間には鐵道東海道線の外に、阪神・阪急・阪神國道線等の電車線が



大阪市の乗客数
鐵道電車フラグ

あり、京阪間には鐵道東海道線及び京阪新大阪等の電車を通じ、又鐵道片町線が生駒山脈の北麓を廻つて木津と連絡してゐる。市の南部に

片町線は四條まで電化してゐる。沿線に四條電社がある。

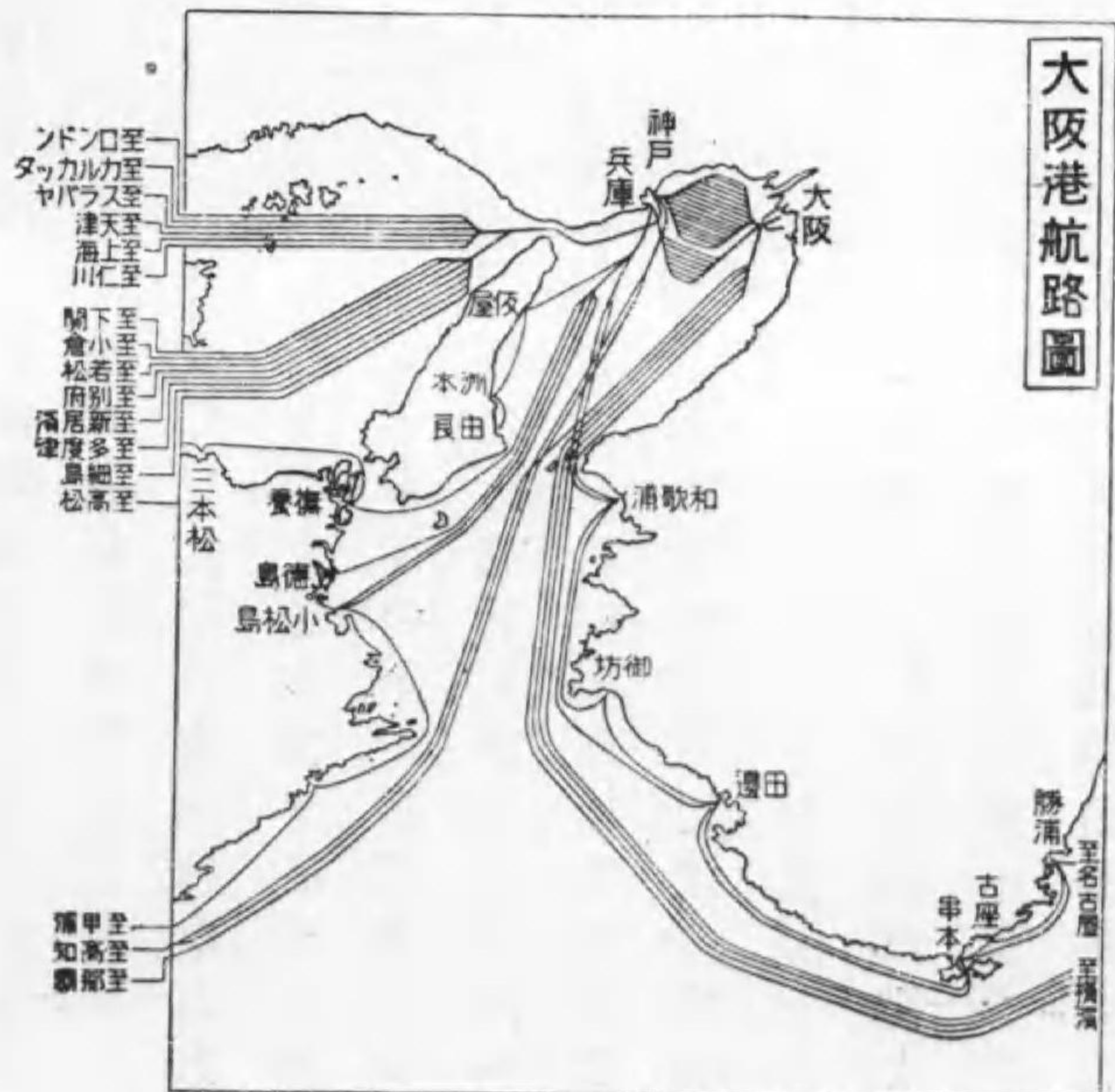


築港

は鐵道關西線、南海・阪堺・阪和・大鐵・新阪堺等の電車があつて、大和方面や和歌山方面との交通の便を計つてゐる。東部の上六を起點とせる大軌電車も亦大和方面へ通じ、更に参宮線と連絡して伊勢方面との交通の便利がある。

航路 大阪港は神戸港と共に内外航路の集中點をなし、其の出入船舶噸數は各一千六百萬噸に及んでゐる。

外國航路には大阪商船・日本郵船等の汽船が、大阪港を起點若しくは寄港地としてゐる。即ち支那航路・歐洲航路・南洋航路・濠洲航路及び印度航路等總べて三十線に達する。内國航路には瀬戸内海・四國・九州・紀州・名古屋・北海道・樺太から臺灣・朝鮮等に至る航路があつて、大阪商船・攝陽汽船・尼ヶ崎汽船等の會社が之れにあたり、殊に大阪商船



の別府航路には優秀船を使用してゐる。

大阪港 大阪港は安治川口より木津川口に至る間に築港せられたもので、南北の防波堤が長く海中に突き出て碇泊を安全ならしめてゐる。水深は干潮時九米、満潮時十一米程で大船巨船が自由に出入することが出来る。棧橋倉庫上屋繫船岸壁其他臨港鐵道等が完備してゐる。大棧橋は長さ四百三十六米程で六



大阪無線局

七千噸級の汽船六隻を同時に繋留することを得、又繫船岸壁は第一より第七まであつて一萬噸級の汽船八隻が同時に荷役することが出来るやうになつてゐる。大阪港は貨物

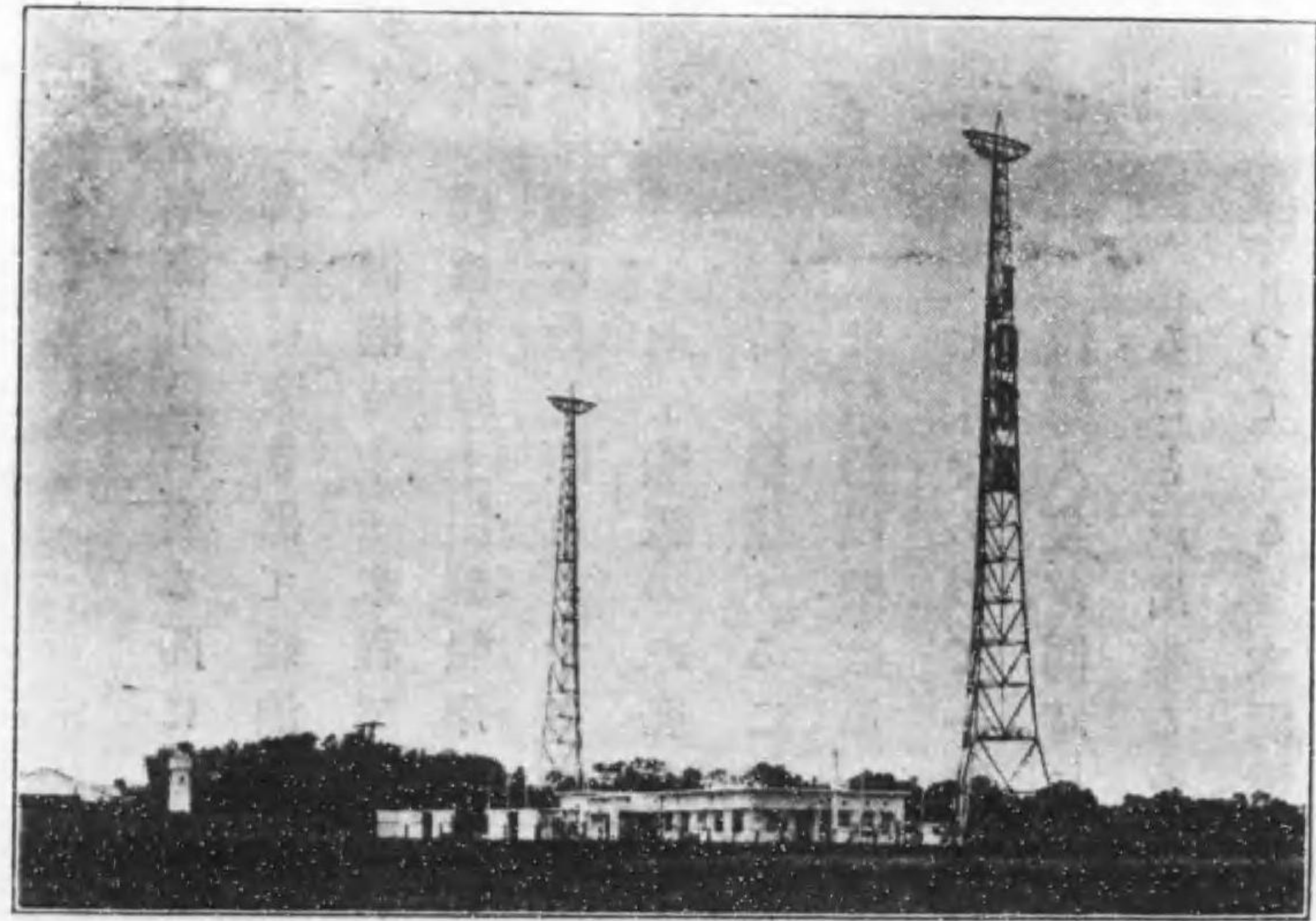
北防波堤二七六三米、南防波堤四四三四米程ある。

港として出入船舶の噸數が年々に増加してゐる。

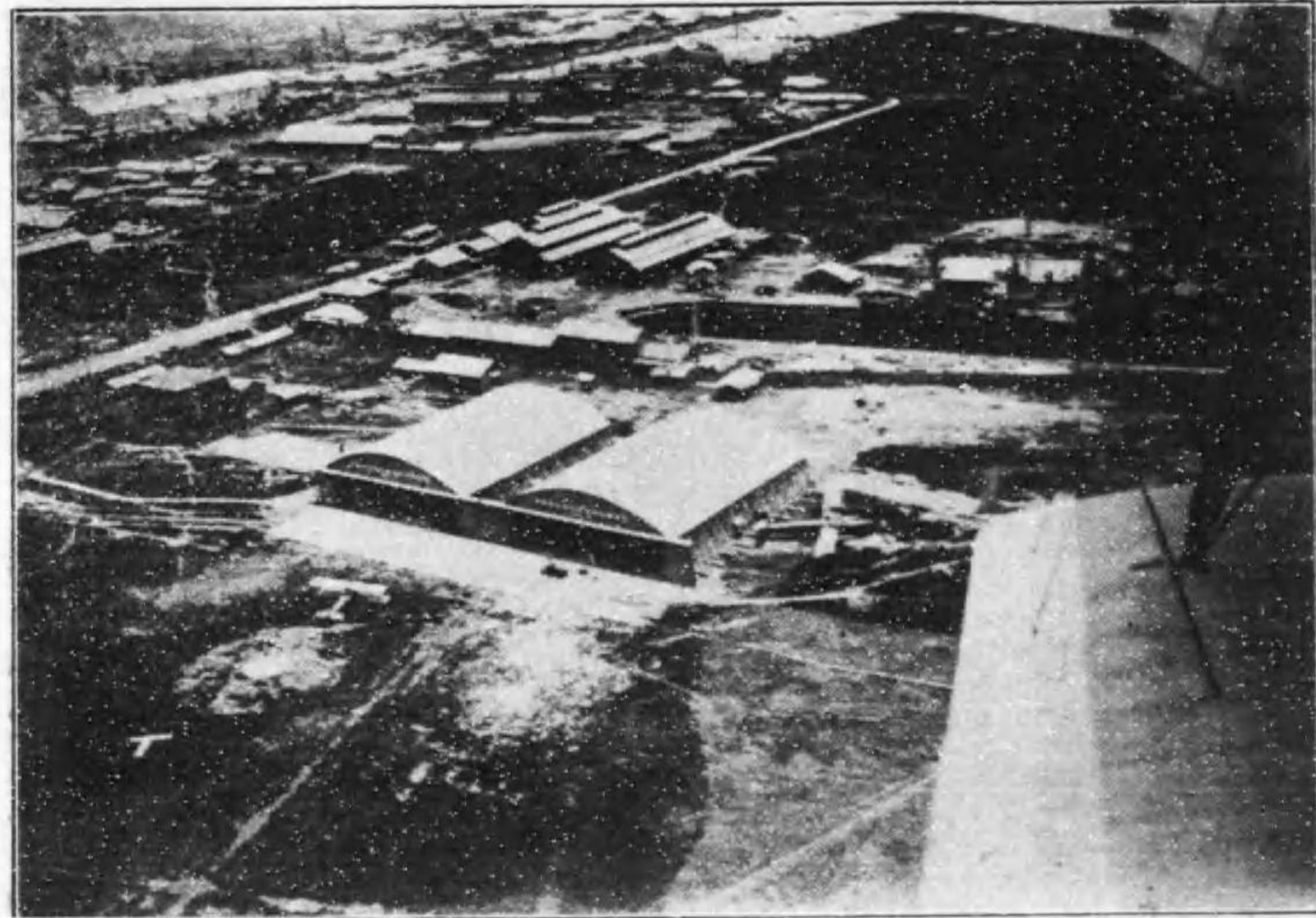
無線電信 大阪無線局は喜連町にあつて、主として支那・南洋方面の受信に使用せられてゐる。

ラヂオ放送 大阪中央放送局は上本町九丁目にあつて、教育に娛樂に日々有益なる放送が行はれ、其の十キロ放送所は千里山に設けられてゐる。

飛行場 飛行機の發着所



千里山放送所



木津川飛行場

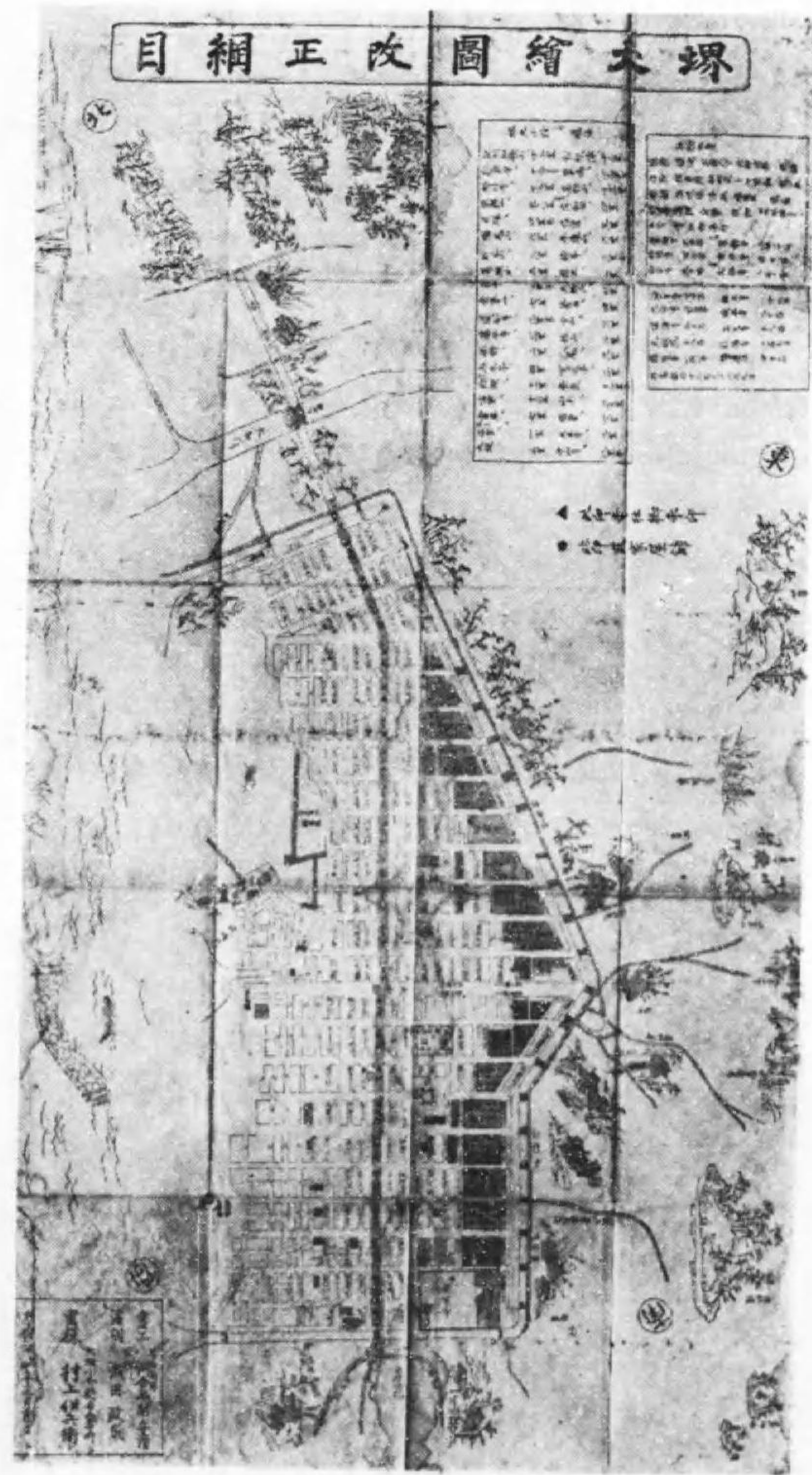
には木津川飛行場があつて、東京・福岡及び京城・大連との間に、旅客、郵便、貨物等を空輸する定期航空が行はれてゐる。

第六章 處誌

第一節 堺市

及び其の附近

堺市は大阪に隣接する工業都市で、大和川を隔て、相對してゐる。初め堺市は



（年十二保享）圖古の堺

吉野朝の頃から港町として發達した所であつて、室町時代には内外の船舶の出入が夥しく、琉球支那及び南洋方面との交易が盛に行はれ、當時は近畿の文化の中心をなしてゐたが、秀吉の

大阪築城以來商人は大阪城下に移るやうになつてだん／＼衰へて來た。又江戸時代に及び大和川の開鑿は其の流出する土砂を



米 1000 500 0
尺 10 5 0

圖形地市場堺
（る依に圖形地一分萬五部量測地緯）

して港を埋没せしめ遂に今日の如く大船の出入を不便ならしめた。然るに近年阪神地方に大

工業が勃興するやうになつてから、また市況は復活して重要な工業都市となり、人口は年々増加して現在十一萬六千を數へるに至つた。

市街は略海岸に並行して周圍に濠を繞らし、封建時代の城廓的都市をそのまゝ遺してゐる。
大・小・路・山・ノ・口・筋・及・び・宿・院・は市中の最も繁華なところで大商店が多く並ん



港 堺

及物と緞通とは古來有名である。堺市の東には騎兵聯隊がある。郊外に大仙陵がある。鳳町には大鳥神社がある。



社 神 鳥 大

である。
工業區は水運の便利な市の西北部にあつて、濠の外には新市街が発達してゐる。

その工業には綿織物をはじめ、足袋・車輛・酒類・油類・煉瓦・染物・セルロイド・及物・緞通・硝子類等の製造が盛である。

堺市の附近には鳳・濱寺・大津・高石等の名邑があつて、綿織物染物等の染織工業が盛で海岸地帯には住宅地の發達著しく、又夏季海水浴場として賑かである。

第二節 岸和田市 及び其の附近

岸和田市は泉南地方の中心地で紀州街道に沿ひ岡部氏の城下町として發達したところである。港は水が淺く、爲に汽船の出入は不便であるが、阪神地方へ和船の便を利用して工業の發達を見、今は大阪灣沿岸工業地帯南部の工業都市となり、人



岸和田市



岸和田の港

口三萬五千に及び綿織物製綱煉瓦製造業等が盛である。市の主要街は紀州街道に沿へる北町堺町で殊に欄干橋筋には大商店が軒を並べてゐる。市の東方の久米田寺久米田池等は僧行基の遺跡地として著れてゐる。岸和田市の附近には佐野貝塚春木等の名邑があつて、綿糸綿織綿ネル等の紡織工業が行はれてゐる。

第三節 尼ヶ崎市 及び其の附近

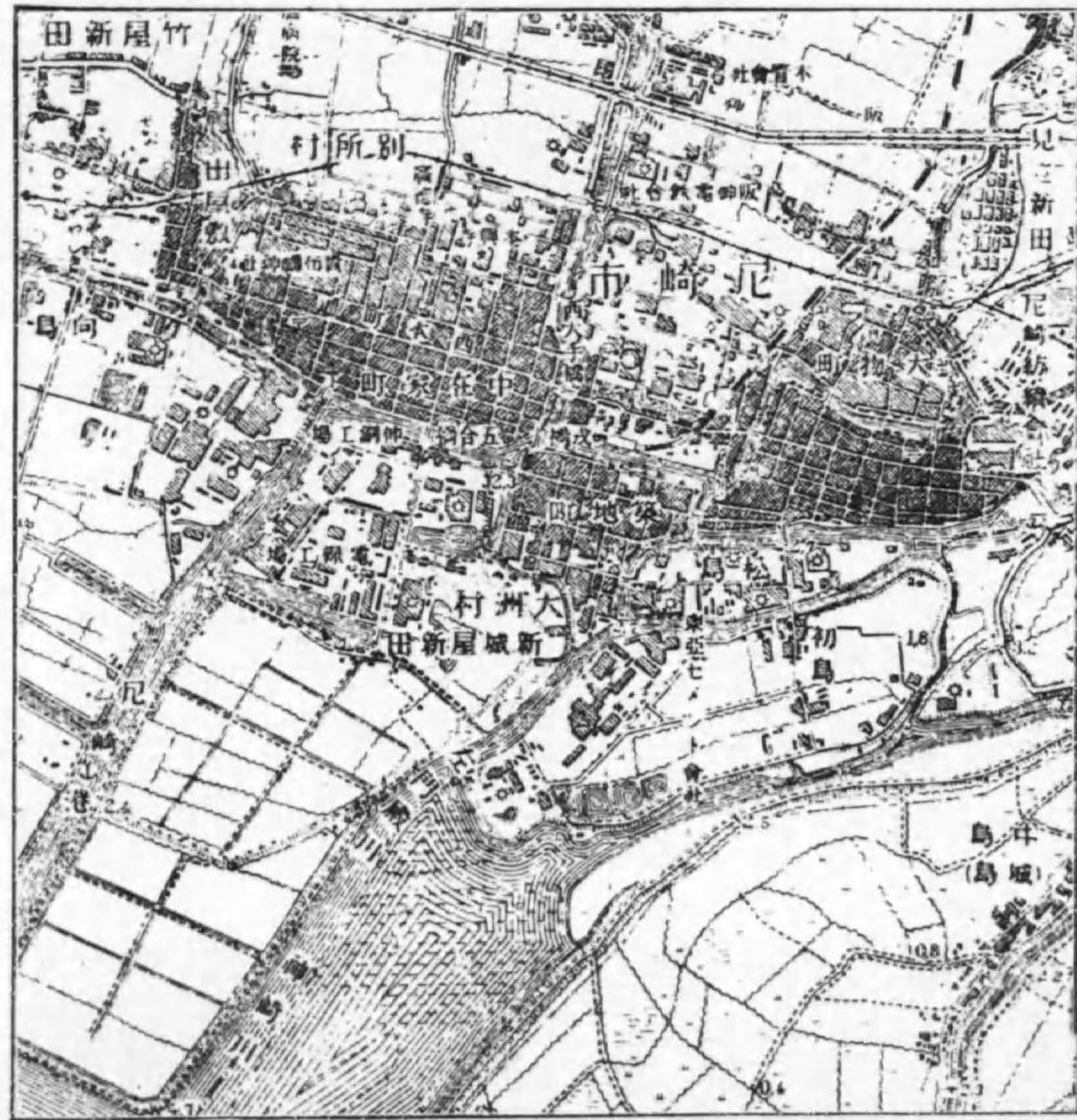
尼ヶ崎市は神崎川を隔てて大阪市に隣接してゐる工業都市で人口約五萬、その東北に當る小田村と共に水運の便利なために到るところに工場がある。原料を積んで來るのにも、製品を積出すにも、船によつて阪神兩港に連絡することが出來至つて便利である。工業は



船の崎ヶ尼

六〇

綿紡織、化學工業が盛であつて、綿糸・硝子・石鹼・燐寸・セメント・鉛電線等の



米 1000 500 0
町 10 5 0

圖形地市崎ヶ尼
(る依に圖形地一分千五萬二部量測地陸)

産出が多い。市の中央部には尼ヶ崎城址がある。尼ヶ崎は櫻井氏の城下町として發達したものである。南部は埋立地からなり、

櫻井氏はもと松平氏といふ

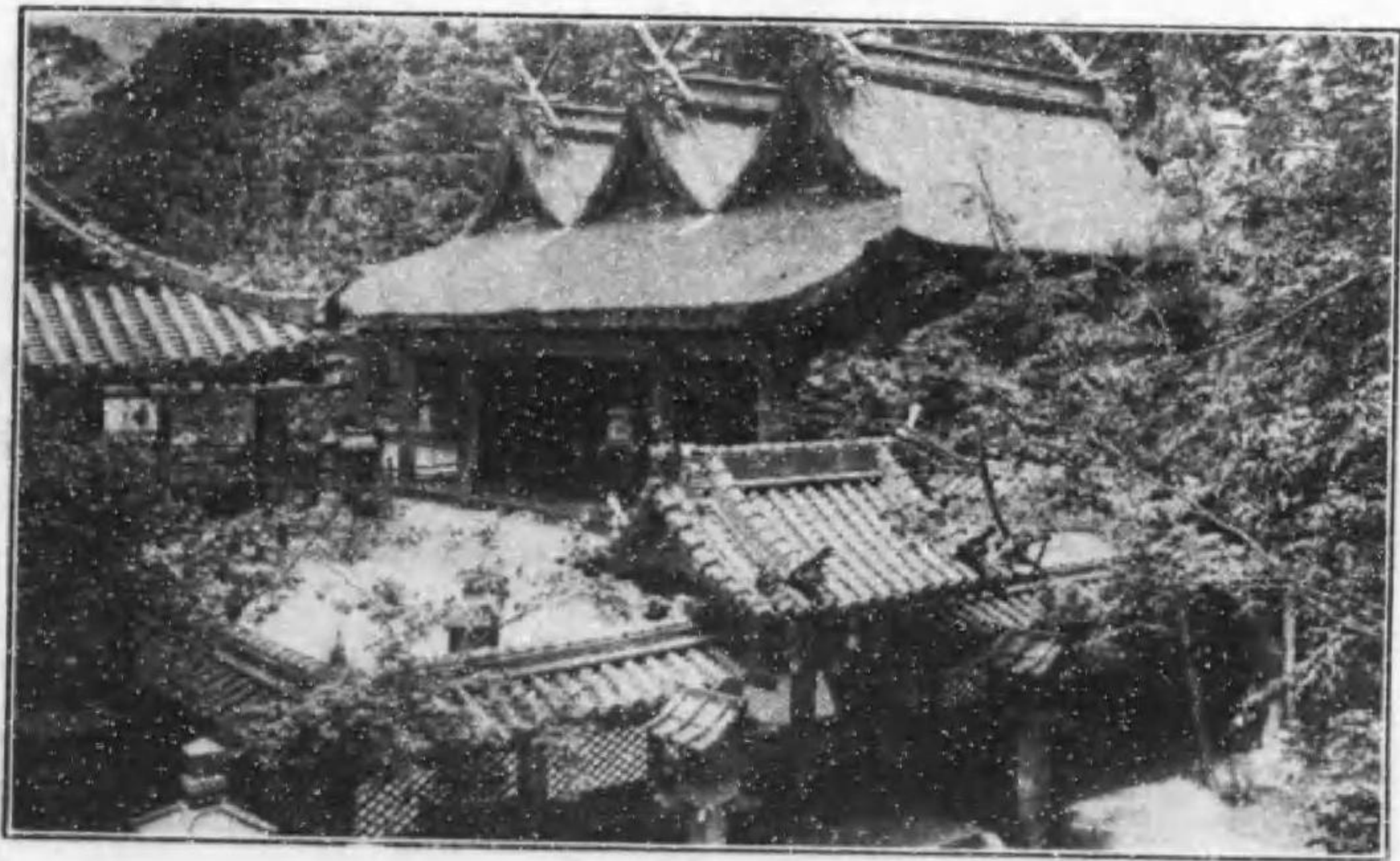
六一

新田と稱せられる地名が多い。

第四節 西ノ宮市

及び其の附近

西ノ宮市は阪神間の略中央に位する。こゝは一月十日の戎祭で名高い。その戎神社は現在市の西北部にある。神社の東門に續いてゐる通りは本町と云つて長く東西に延びてゐる。此の本町通りは人家が最も稠密で賑かな商店街をなしてゐる。



西宮戎神社



灘の酒庫

市は戎神社の門前町として發達したところであるが、此の地をして發展せしめたのは清酒の醸造業である。昭和八年四月より接續町村を合して、人口約十萬の都市となつた。

六甲山塊南麓の、東は今津から西は西灘まで一帯を灘地方と稱して、古來清酒の醸造で知られてゐる。其の醸造用の水は西ノ宮の井戸水で此の水を「宮水」と呼

灘五郷
今宮
西ノ宮
東郷(魚崎)
中郷(御影・石屋・東明)
西郷(大石・新在家・岩屋)
市の北郊に、
廣田神社がある。

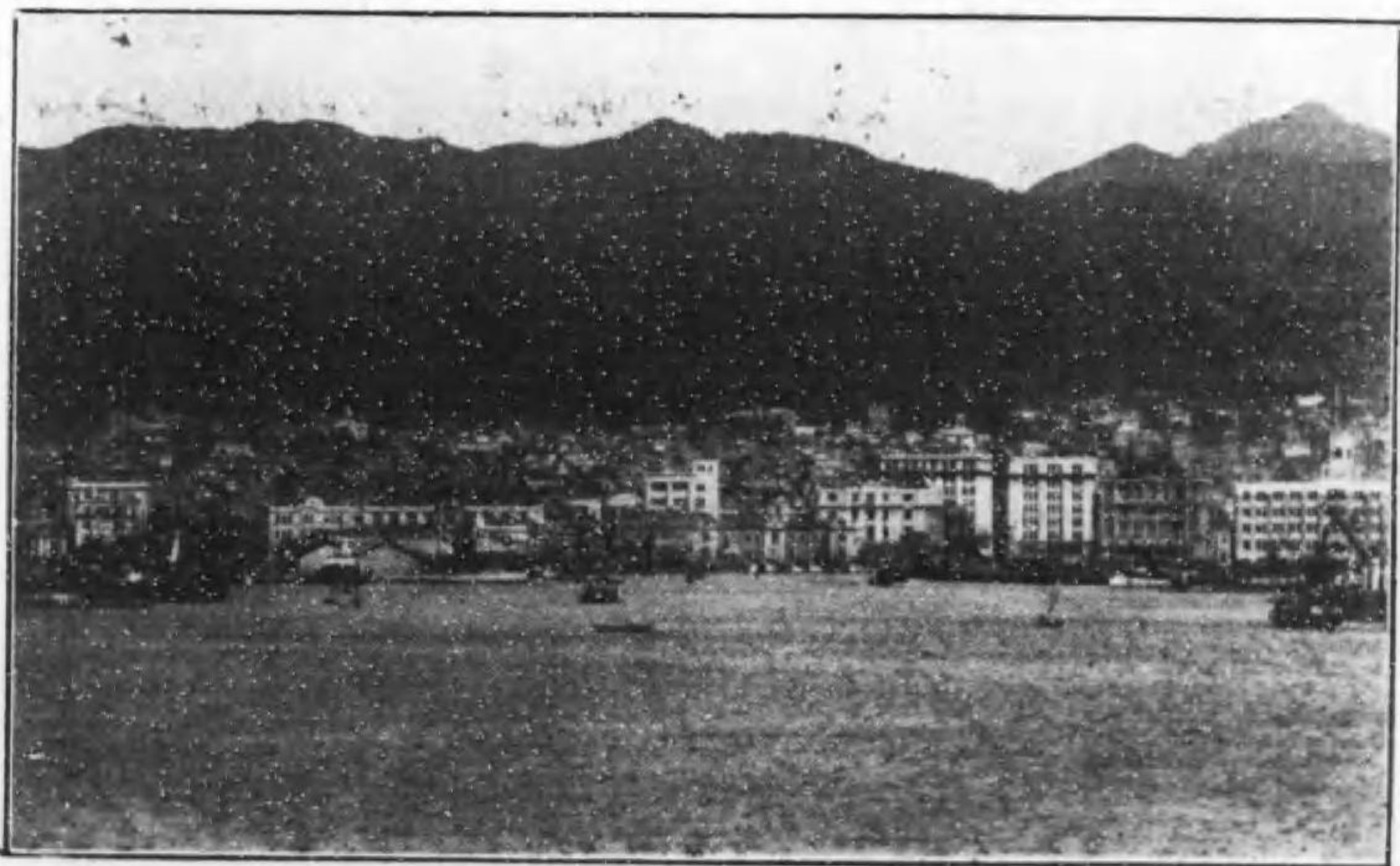
んで非常に珍重してゐる。現在此の宮水を汲む井戸が百四十餘ヶ所もあつて毎年醸造期になると、宮水を賣る「水屋」宮水を運ぶ「水舟」が出来て灘五郷に配られる。

市の南部一帯に酒造蔵が多く、その間を幾筋もの細い通りが、南北に海岸まで通つてゐる。

第五節 神戸市及び

其の附近

神戸市は六甲山塊の断層崖下



神戸港

面積約八〇方軒

に發達した我が國六大都市の一で人口七十九萬五千に達する。此の地は貿易港として發達した大都市で、港は水深く、砂泥の底質は投錨に便利であり、又屏風のやうに連つた六甲は冬季西北の季節風を防ぐことが出来る。その上和田岬から南防波堤や東防波堤等の大防波堤が設けられて碇泊を安全ならしめ、又繋船岸壁には第一、



夜の元の町通

第二第三第四の突堤が楡形に並び、第一第二の繋船岸壁は水深約十米で大船巨舶が自由に横付けされる。荷揚には東に葺合港、西に兵庫港、中央にメリケン波止場がある。又造船所には川崎

造船所三菱造船所等があり、殊に三菱造船所の浮ドックは東洋第一を誇つてゐる。

貿易の盛大なることは我が國第一で、出入船舶の總噸數四千萬噸を越え、貿易額は輸出七億圓、輸入八億八千萬圓に及んでゐる。輸出品の主なるものは綿織物絹織物生糸薄荷類砂糖眞田類燐寸類で、輸入品には繰綿羊毛米機械類羅紗護謨等が主なるもので毎年輸入超過を示してゐる。取引先は貿易額の約三割は北米合衆國で其他は支那英領印度濠洲蘭領印度香港英領海峽植民地關東州比律賓埃及加奈陀等である。

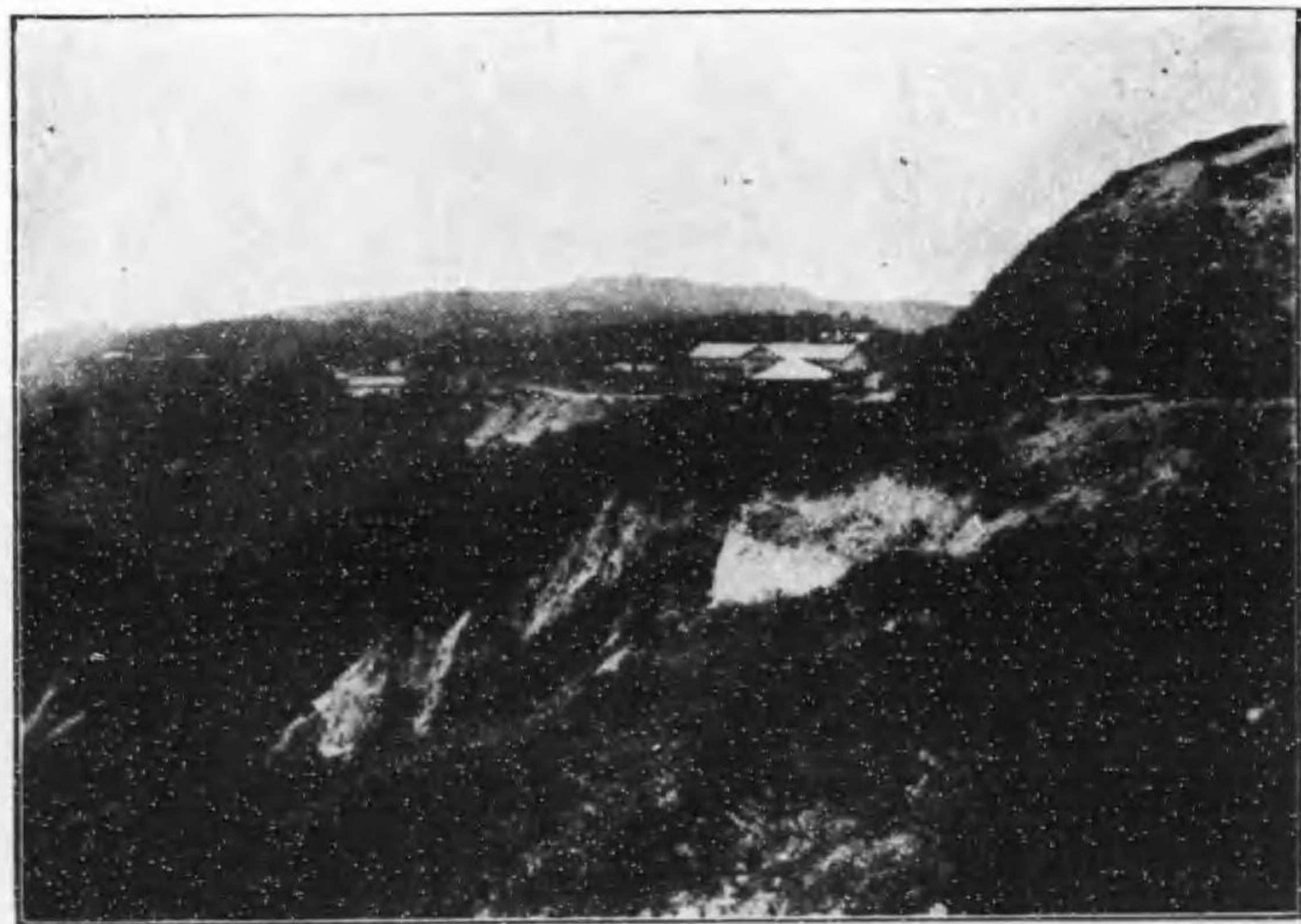
市街は外國商館の多い元居留地、汽船會社の並ぶ海岸通、商店街の元町通、住宅區域の下山手通や山本通が孤狀をなして階段狀に發達してゐる。

工業區は市街の西南部を占めてゐて、雜金屬製艦精糖製粉護

市は種、蕪合、神戸、港、港東、兵庫、林田、須磨の八區に分たれてゐる。

謨諸機械車輛紡績樟腦燐寸等が大量に生産される。

附近は古來交通上樞要な地帯をなしてゐるために史蹟名勝も多く、湊川神社須磨寺一ノ谷等が著はれ、又須磨舞子は名勝地をなし、背後の六甲山塊は登山者が多く、山上にはゴルフ場やスキー場があり、摩耶六甲にはケーブルカーの設けがある。



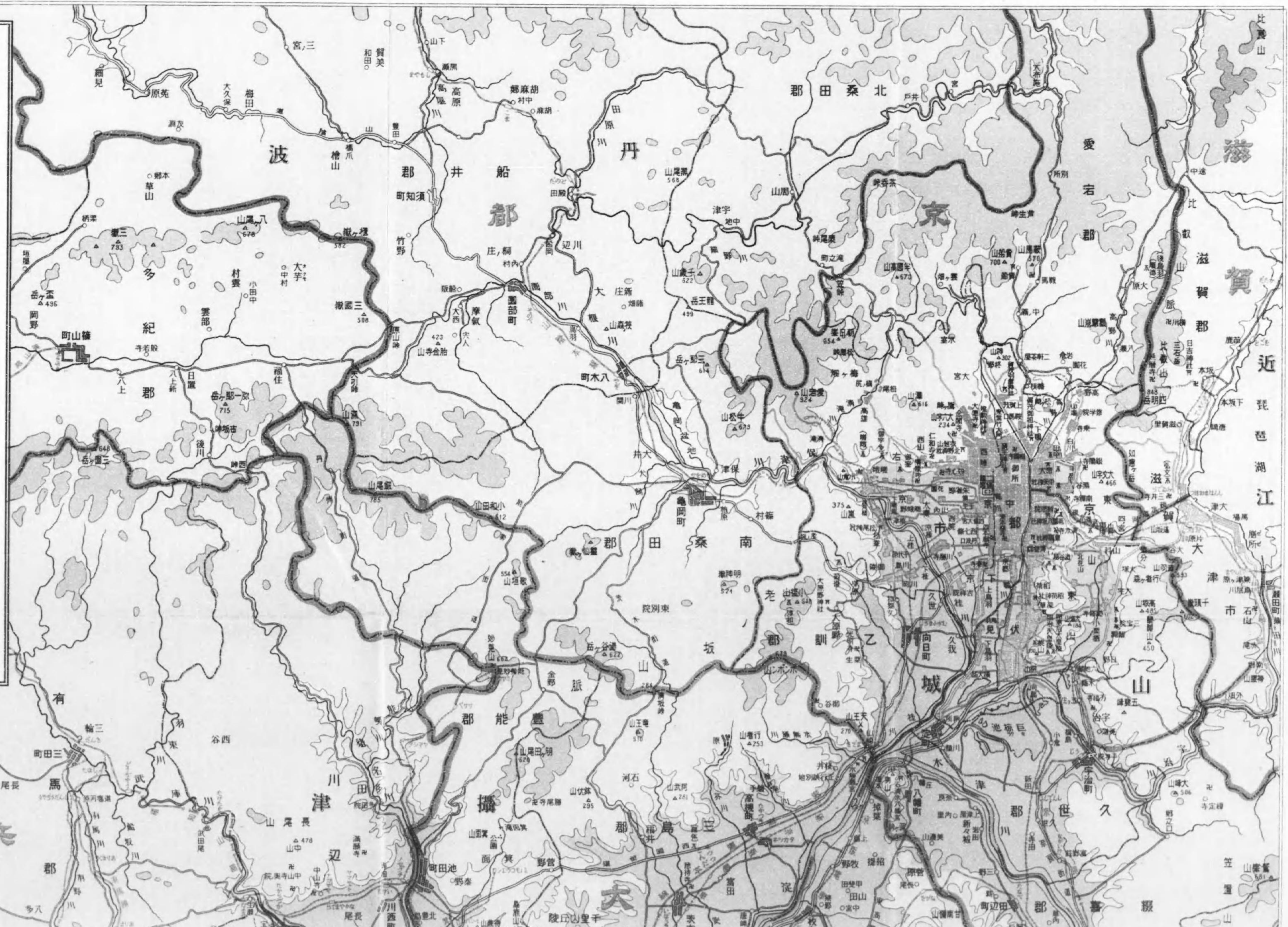
六甲山

大阪郷土地理
終

大阪郷土地理附録

大阪郷土地理附録

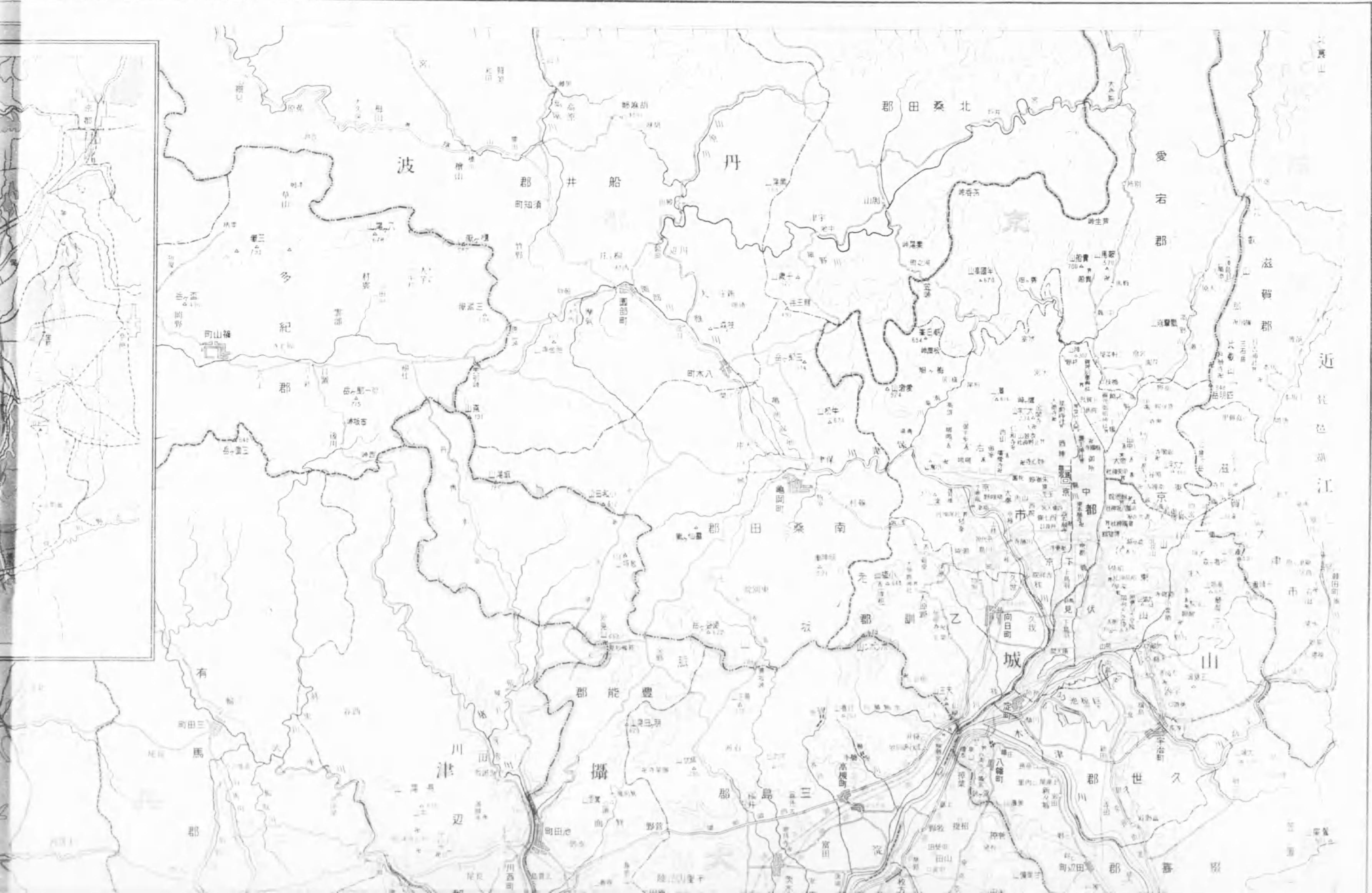
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 18 80 1 2 3 4 5



大阪郷土地理附録

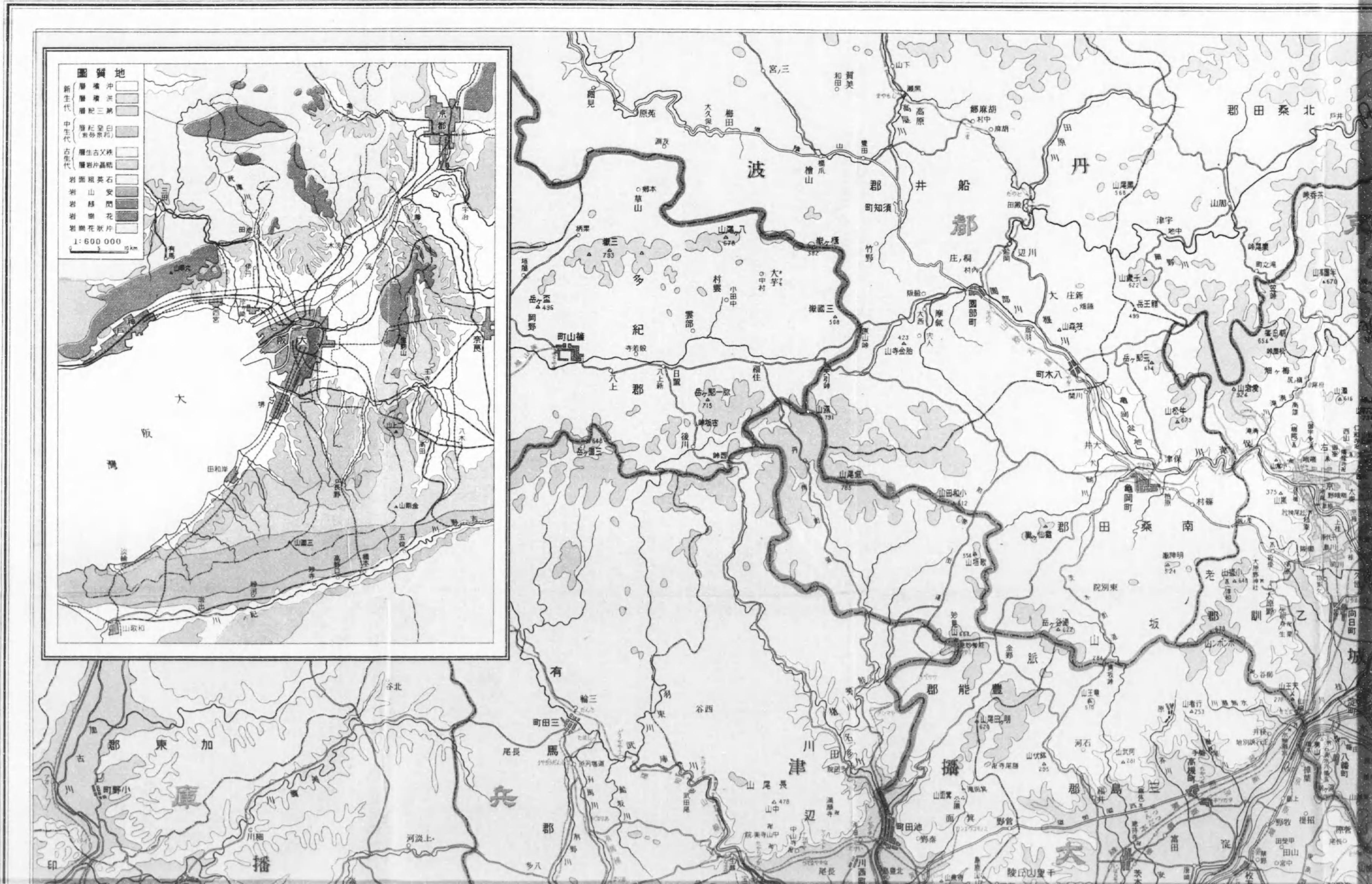
大阪郷土地理附録

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80 1 2 3 4 5



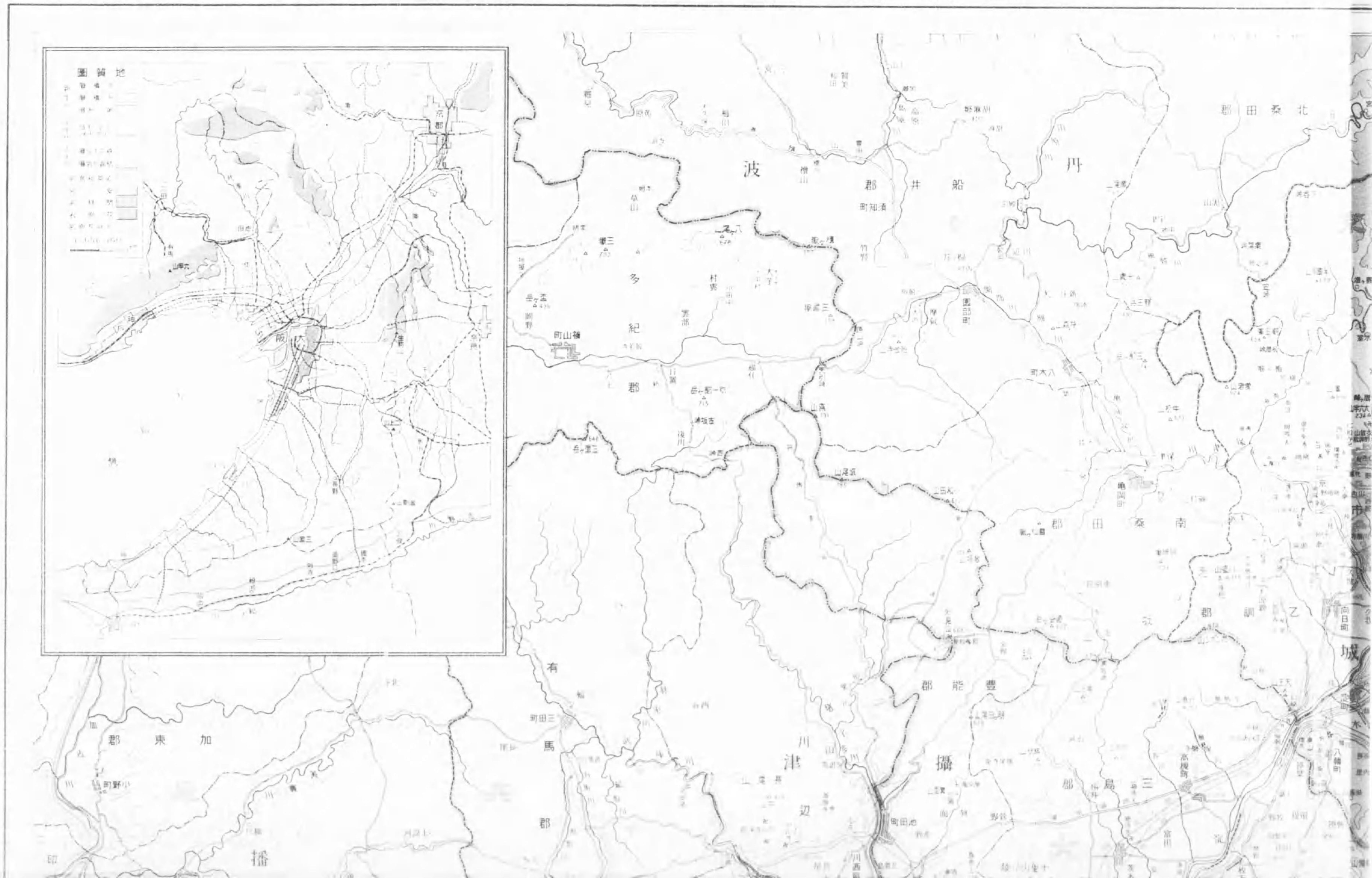
露光量違いの為重複撮影

大阪郷土地圖

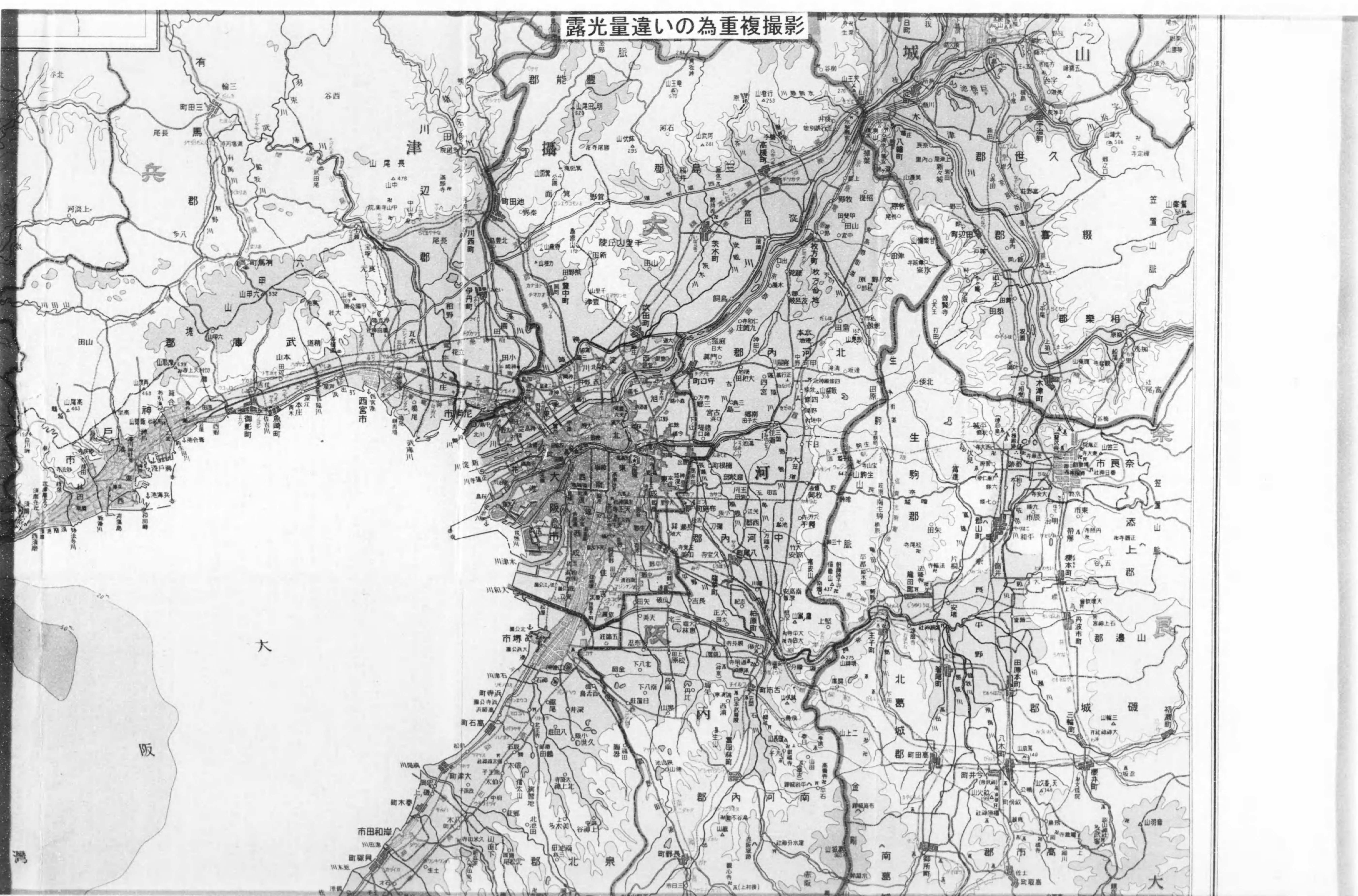


露光量違いの為重複撮影

大坂郷土地圖



露光量違いの為重複撮影



露光量違いの為重複撮影

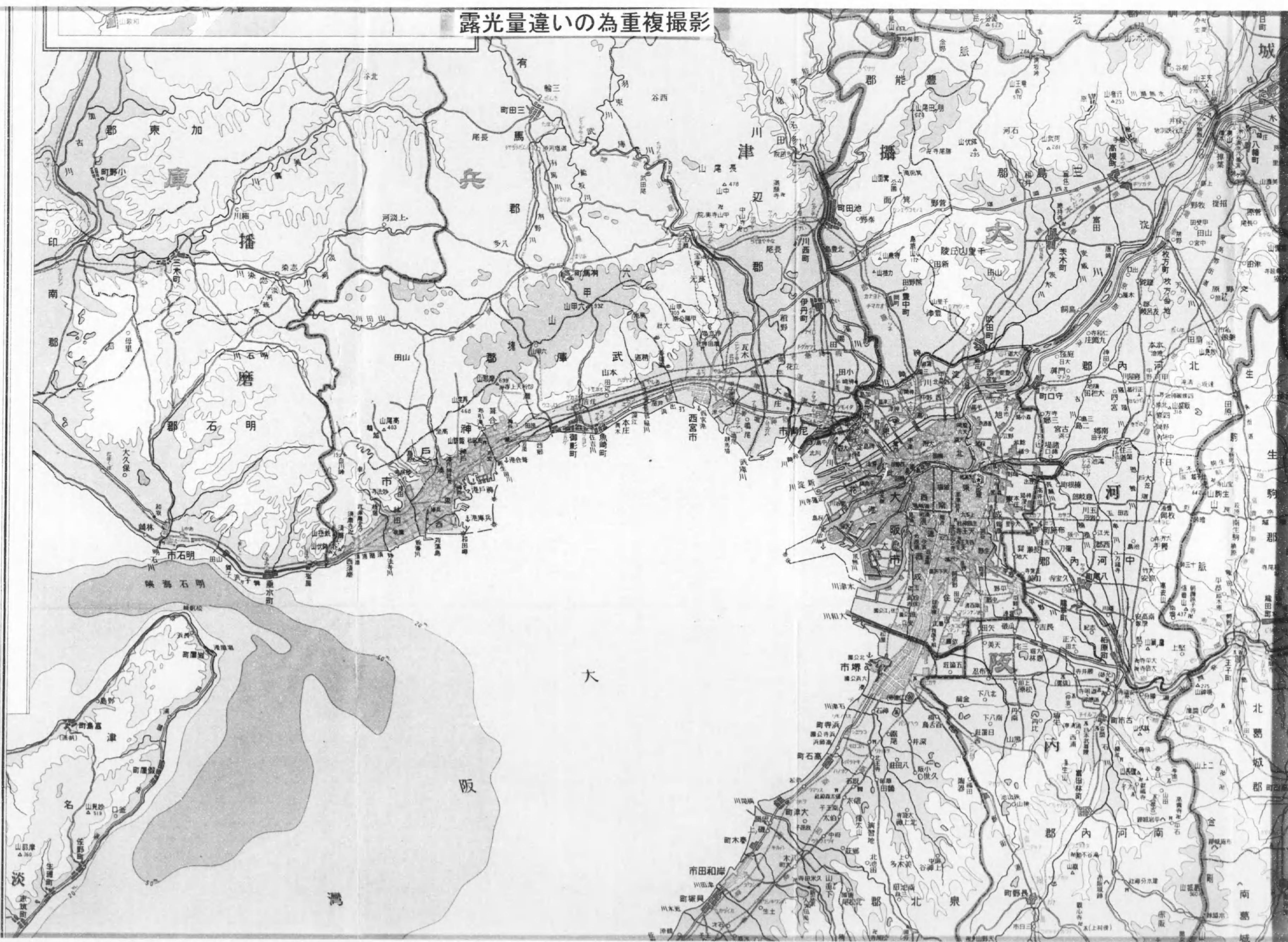


阪

大

大

露光量違いの為重複撮影



露光量違いの為重複撮影



加東郡

播磨

明石郡

武庫郡

津川

攝津

三島郡

河内

大阪

河内

大阪

淡路

海

市田和岸

市堺

河内

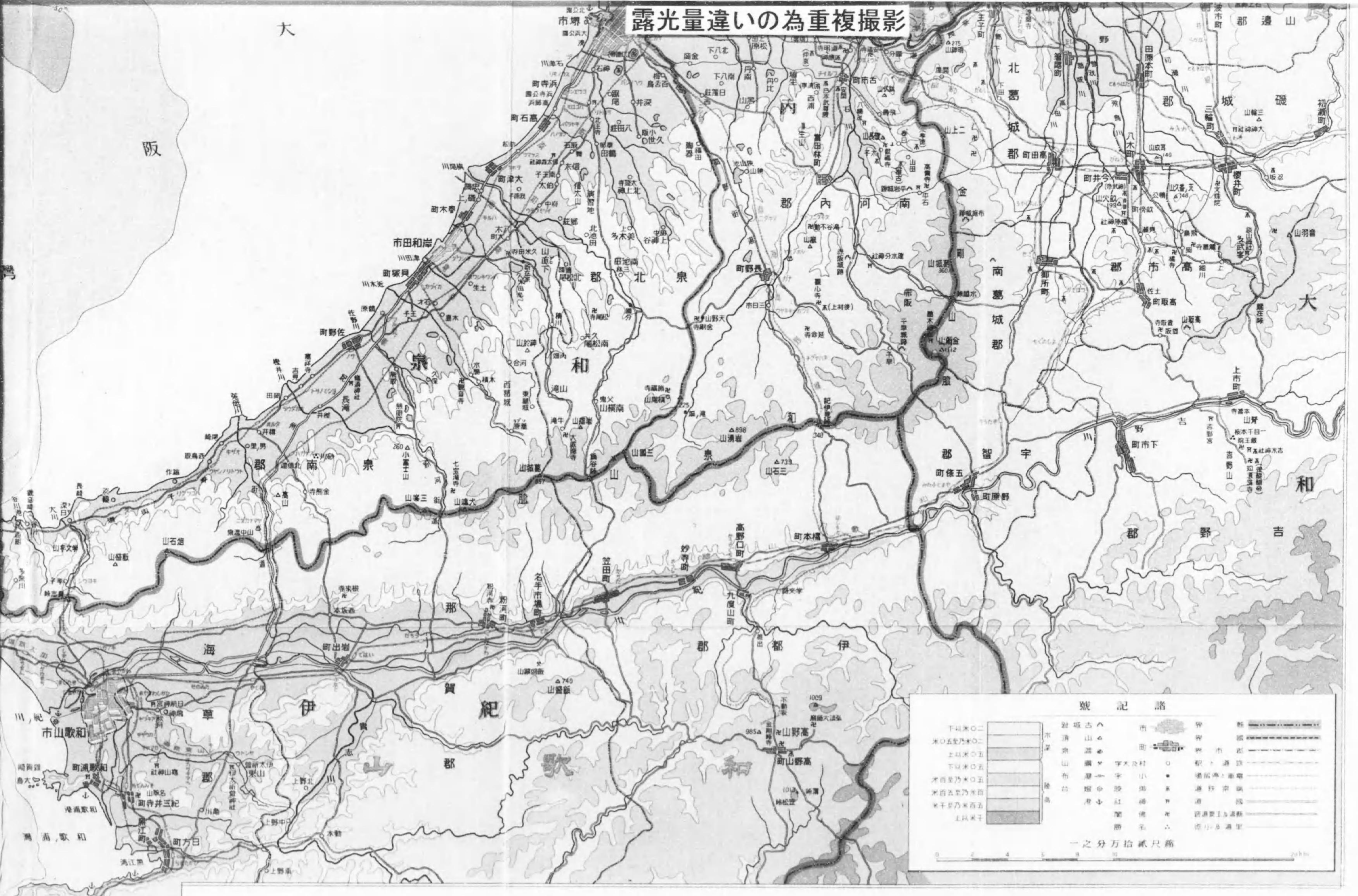
城

生駒

北城

南

露光量違いの為重複撮影



諸記號

下4米0.2	市	界	縣
米0.5至1.0	市	界	國
上1.0米0.5	町	界	市
下1.0米0.5	字	界	郡
米0.5乃至1.0	字	界	郡
米1.0乃至1.5	字	界	郡
米1.5乃至2.0	字	界	郡
上2.0米	字	界	郡

一之分万拾紙尺高

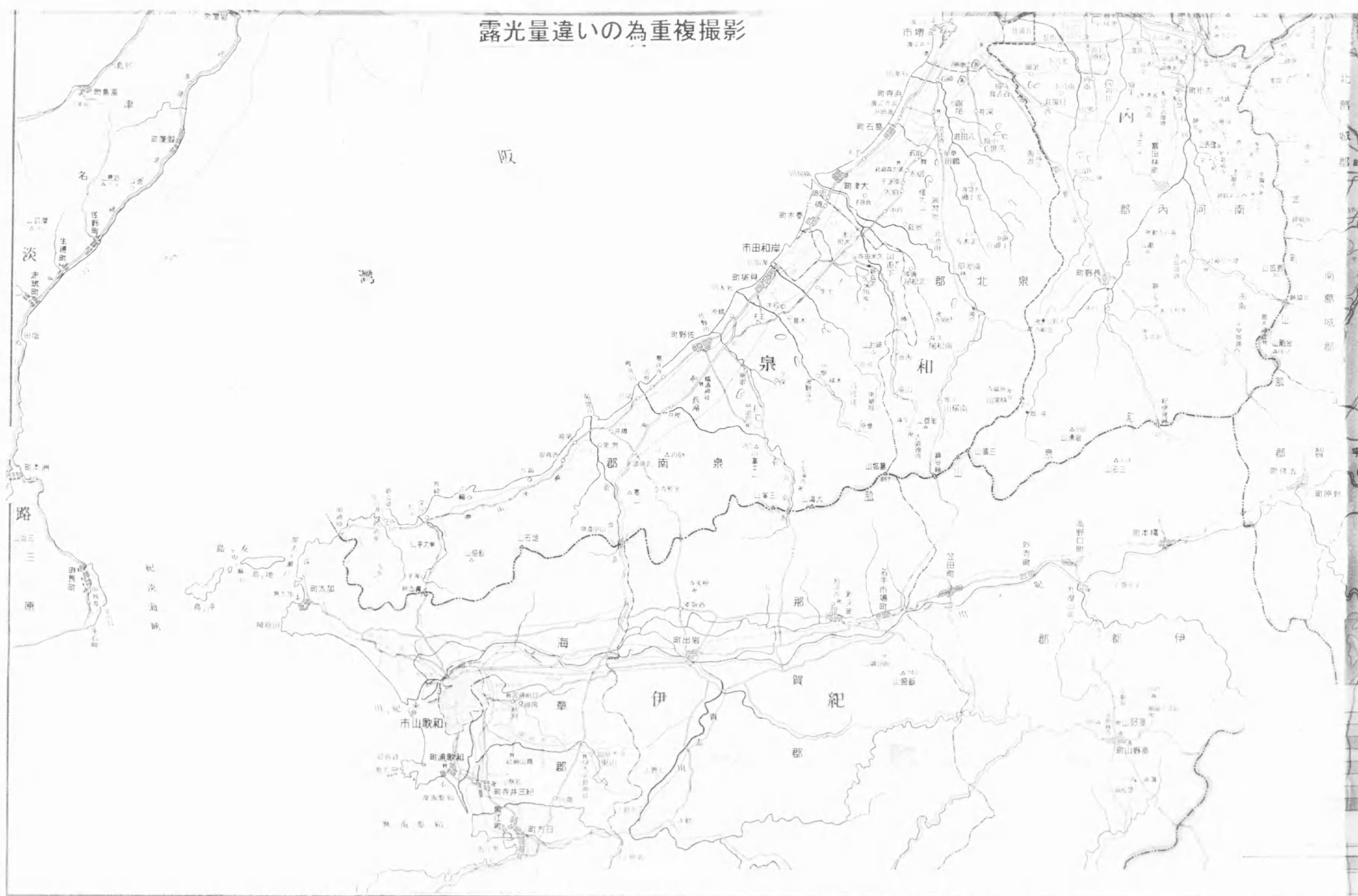
露光量違いの為重複撮影

人

阪



露光量違いの為重複撮影



昭和八年六月二十三日印刷
昭和八年六月二十六日發行

定價金五拾錢

大阪地理學會
代表者 前田德次郎

發行者 博多 久吉
大阪市南區大寶寺町西之丁貳拾貳番地

印刷者 日本印刷製本株式會社
代表者 堀越 幸
大阪市西區阿波座二番町一番地



著作權所有

發賣所

大阪市南區大寶寺町西之丁二二三
東京市神田區錦町三丁目一六

博多成象堂

電話 南區七番七七七番
攝替 大阪七番參參參
攝替 東京五二六〇七

正誤表

頁	行	誤	正
七	六	甲山 土御門天皇	甲山 後土御門天皇
三四	七	航空標式	航空標識
四〇	欄外	阪神工業地帯の工業場分布圖	大阪灣沿岸工業地帯の工場分布圖
四四		大阪市への鐵道電車乗客數グラフ	大阪市内の省線及郊外電車起點に於ける乗降客比較圖
四八	五	繫船岸壁	繫船岸壁
五一	四	欄干橋	欄干橋
五九	六	人口約十萬	人口約八萬
六三			

終

